

令和4年度

「基礎学力調査」

－ 分析・考察と指導事例 －

令和4年10月
石川県教育委員会

目 次

本書の構成 1

I 教科に関する調査結果の分析・考察

II 質問紙調査結果の分析・考察

本書の活用に当たって 2

I 教科に関する調査結果の分析・考察 3

《小学校第4学年国語》 6

《小学校第4学年算数》 12

《小学校第6学年社会》 20

《中学校第3学年社会》 28

《中学校第3学年英語》 34

II 質問紙調査結果の分析・考察 41

1 小学校第4学年児童の調査結果 43

2 学習・生活状況と正答率との関係 50

3 教員の調査結果 52

本書の構成

I 教科に関する調査結果の分析・考察

(1) 全体的な傾向の分析・考察

- ・全体的な結果の状況

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

- ・領域・分野ごとの結果の状況

児童生徒の到達状況を下表のように表記した。

正答率	「到達状況」を示す記号、用語
90%以上の場合	◎：良好である
80%以上～90%未満の場合	○：概ね良好である
70%以上～80%未満の場合	◇：基準に到達している
60%以上～70%未満の場合	▽：十分とはいえない
60%未満の場合	▼：不十分である

- ・分析・考察及び学習指導に当たって留意すべきこと等
- ・参考となる他の指導事例や過去の調査問題
- ・指導改善のポイント

(3) 改善に向けた指導事例

- ・教科ごとに、改善に向けた指導事例を2事例記載し、以下の内容を示す。

	項目	内容
①	問題と解答の状況	・設問番号、領域・分野、出題のねらい、評価の観点 ・関連問題 ・正答例、誤答例、正答率、誤答率、無解答率
②	指導改善に向けて	・解答状況の分析・考察 ・指導改善の具体的なポイント
③	改善事例	・学年、単元（指導内容等） ・指導のねらい ・具体例

- ・関連する「学びの12か条^{プラス}」（巻末資料参照）の項目を右のように示す。

学びの12か条+ ○

II 質問紙調査結果の分析・考察

(1) 小学校第4学年児童の調査結果

- ・設問ごとの経年比較、学年間比較

(2) 学習・生活状況と正答率との関係

- ・正答率との関係を基にした分析・考察

(3) 教員の調査結果

- ・設問ごとの経年比較

本書の活用に当たって

「教科に関する調査結果の分析・考察」のページでは、以下のように、取り上げた問題に関連した指導事例や調査問題、指導に当たって留意すべきこと等を記載してあります。今後の授業の参考、取組の検証にご活用ください。

The image shows a survey form with several sections and callouts:

- Header:** ○学校第○学年 教科. A table for 県平均正答率 (County average correct answer rate) and 学校正答率 (School correct answer rate).
- (1) 全体的な傾向** (Overall trend): A dotted line for notes.
- (2) 領域・分野ごとの分析・考察** (Analysis by domain/field): Includes a table for 出題の趣旨 (Purpose of questions) with columns for 設問番号 (Question number), 問題の内容 (Question content), 県平均正答率 (County average correct answer rate), and 学校正答率 (School correct answer rate).
- Callouts:**
 - ① 参考となる他の指導事例 (Other reference guidance cases) points to the '出題の趣旨' table.
 - ② 参考となる調査問題 (Reference survey questions) points to the '出題の趣旨' table.
 - ③ 学習指導に当たって (When learning guidance) points to a large empty box below the table.
 - ④ 指導改善のポイント (Points for improvement of guidance) points to a section titled '指導改善のポイント' with checkboxes and arrows to examples.

① 参考となる他の指導事例

以下の略称を用いて記載しています。

- (全) … 「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」に掲載されている事例
- (県) … 「基礎学力調査－分析・考察と指導事例－」に掲載されている事例
- (P) … WEBサイト「いしかわ学力向上プログラム」に掲載されている事例

② 参考となる調査問題

以下の略称を用いて記載しています。

- (全) … 全国学力・学習状況調査で出題された問題
- (県) … 本県の基礎学力調査で出題された問題
- (P) … WEBサイト「いしかわ学力向上プログラム」に掲載されている評価問題

③ 学習指導に当たって

取り上げた問題について、調査結果を受け、学習指導の改善・充実を図る際のポイントを、箇条書きで記載しています。

④ 指導改善のポイント

今年度の調査結果より、特に課題が見られた問題について、指導改善のポイントを記載しています。

I 教科に関する調査結果の分析・考察

小学校 第4学年
「国語」「算数」

小学校第4学年 国語

県平均正答率	学校正答率
65.2%	%

(1) 全体的な傾向

令和4年度の平均正答率は65.2%で、3年度より4.7ポイント下回り、到達状況は十分とはいえない。「知識及び技能」は、3年度より5.1ポイント下回っているものの、基準に到達している。「話すこと・聞くこと」領域は、3年度より3.4ポイント上回り、十分とはいえないが、改善が図られている。「書くこと」領域及び「読むこと」領域の到達状況は、不十分である。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【知識及び技能】 (県平均正答率: 72.2%) (学校正答率: %)

○: 基本的な漢字を読んだり書いたりすること〔七〕

設問七の正答率については、89.2%であり、概ね良好である。漢字の書きについては、今後も当該学年に配当されている漢字を文や文章の中で使う指導が大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
七	① 漢字の書き (午後)	75.3%	%
	② 漢字の書き (楽しい)	96.2%	%
	③ 漢字の読み (選ぶ)	97.0%	%
	④ 漢字の読み (返事)	88.4%	%

◇: ローマ字を読んだり書いたりすること〔五〕

設問五の正答率については、72.6%であり、基準に到達している。今後も、日本語の音が、子音と母音の組み合わせで成り立っていることを理解させる指導が大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
五	① ローマ字の書き (なべ)	59.8%	%
	② ローマ字の読み (happa)	80.4%	%
	③ ローマ字の読み (kyori)	77.5%	%

▼: 指示する語句の役割について理解すること〔三2〕

設問三2については、p. 8参照。
指導に当たっては、次のような点を充実させる必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
三	2 指示する語句	50.6%	%

(県) R3: 三2 R2: 三2 R1: 三3 H30: 三1

- ・ 指示する語句が含まれる文を最後まで読み、指示する語句が何を指し示しているのかを丁寧に考えさせる指導を行うこと
- ・ 「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」が一体となって働くような学習活動を充実させること

【話すこと・聞くこと】 (県平均正答率: 69.4%) (学校正答率: %)

○: 話の中心が明確になるよう話の構成を考えること〔一1〕

設問一1の正答率については、88.3%であり、概ね良好である。今後も、より相手に伝わるように、取りあげる理由や事例を工夫したり、伝えたいことの中心が明確になるよう構成を考えたりする指導が大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
一	1 話の構成 (話すこと)	88.3%	%

(県) H29: 一1 H26: 一1

▼: 話の中心や話す場面を意識して、間の取り方を工夫すること〔一2〕

設問一2の正答率については、45.4%であり、不十分である。形式的に間を取らせるのではなく、聞き手の立場に立って、その必要性を考えさせたり、効果を実感させたりする指導が必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
一	2 間の取り方 (話すこと)	45.4%	%

(県) H27: 事例1

(県) R2: 一3 R1: 一2

【書くこと】

(県平均正答率：45.8%) (学校正答率： %)

▼：相手や目的を意識して、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること〔八1〕

設問八1については、p.10参照。
指導に当たっては、次のような点を充実させる必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
八 1	集めた材料の比較や分類	34.2%	%
(県) H25：事例2		(県) R1：八1 H26：八1	

相手や目的を意識し、伝えたいことが明確になるように文章の構成を検討したり、その過程で、集めた材料の比較・分類を通して内容の再検討をしたりするなど、構成の検討と内容の検討を往還する学習活動を充実させること

▼：間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えること〔八2表記〕

設問八2表記の正答率については、37.0%であり、不十分である。要因として、推敲することによって、整った文章になることが実感できるような指導が不十分だと考えられる。指導に当たっては、〔知識及び技能〕の指導事項と関連を図り、文や文章を整える学習活動を充実させる必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
八 2表記	推敲(表記)	37.0%	%
(県) R3：事例1 H29：事例1		(県) R1：八2	

【読むこと】

(県平均正答率：57.8%) (学校正答率： %)

▽：文章を読んで理解したことに基づいて、考えをもつこと〔二2〕

設問二2の正答率については、60.9%であり、十分とはいえない。要因として、目的を意識しながら、内容の中心となる語や文を見付ける指導が不十分だと考えられる。指導に当たっては、目的を意識して、中心となる語や文を見付け、分かったことをまとめる学習活動を充実させる必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
二 2	考えの形成	60.9%	%
(県) R3：事例2 H27：事例2		(県) R1：二4	

▼：段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係について、叙述を基に捉えること〔二1〕

設問二1の正答率については、41.3%であり、不十分である。要因として、段落相互の関係から文章全体の組み立てを捉え、それぞれの段落の役割について考えさせる指導が不十分だと考えられる。中心となる語や文を捉えさせることによって、段落相互の関係に着目させ、それぞれの段落がどのような役割をもっているかを考えさせる指導が必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
二 1	説明的文章の構造と内容の把握	41.3%	%
(県) H25：事例1		(県) H28：二2 H27：二2	

指導改善のポイント

- 指示する語句が指し示していることを文脈に沿って判断し、指示する語句の役割を理解する学習活動を充実すること (→ 事例1)
- 相手や目的を意識して、「書くこと」の学習過程である構成の検討と内容の検討を往還する学習活動を充実すること (→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

ア 事例1
指示する語句が指し示していることを文脈に沿って考え、指示する語句の役割を理解する学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
㊦2	知識及び技能	指示する語句の役割について理解している。	知識・技能

㊦2 「㊦それ」は何を指していますか。【おすすめの本のしょうかいカード】の中からぬき出して書きましょう。

正答例	誤答例	
岩	<ul style="list-style-type: none"> ・母おにのすがた ・大すきだった母おにのすがた 	
正答率	誤答率	無解答率
50.6%	39.3%	10.0%

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「指示する語句の役割について理解している」であり、正答率は50.6%と不十分である。この要因として、指示する語句が指し示している言葉は、その直前にあるという指導にとどまり、文と文との内容のつながりなどを明瞭に表す役割をしていることを理解させる指導が不十分であると考えられる。

指導に当たっては、指示する語句が含まれる文章を最後まで読み、指示する語句が何を指し示しているのかを考える学習活動が必要である。また、生きて働く「知識及び技能」を身に付けるために、〔知識及び技能〕の指導事項と〔思考力、判断力、表現力等〕の「読むこと」の指導事項との関連を図り、両者が一体となって働くような学習活動を充実することが必要である。

③ 改善事例 第3学年 「知識及び技能」指示する語句の学習

「こそあど言葉を使いこなそう」 光村図書三年上
「こそあど言葉」 東京書籍三年上


1 指導のねらい
指示する語句が、文と文との内容のつながりを明瞭に表す役割があることを理解することができる。
(知識及び技能 (1) カ)

2 具体例 【指示する語句が何を指し示しているのかを考える学習活動】
「こそあど言葉を使いこなそう」(光村図書三年上 P88・89)

指導のポイント
指示する語句の後に手掛かりとなる言葉があるため、指示する語句を含む文を最後まで読んで考えること。

わたしは、おばあさんから赤いぼうしをもらった。
次の日、わたしはそれをかぶって出かけた。

しあいのつもりで練習するとよい。
これが、コーチからの助言です。



若手先生



「それ」や「これ」を含む文章を最後まで読んで考えてみましょう。



「それをかぶって出かけた。」と書かれているから、「それ」が指し示しているものは、かぶることができるものだね。



かぶることができるものは、「赤いぼうし」だよね。「それ」の代わりに「赤いぼうし」を当てはめてみて、文の意味が伝わるかどうか確かめてみよう。



「次の日、わたしは赤いぼうしをかぶって出かけた。」となるよ。文の意味が伝わるよね。

「これが、コーチからの助言」と書いてあるから、「これ」はコーチが助言してくれた言葉を指し示していると思うよ。



そうだね。前の文の「しあいのつもりで練習するとよい。」がコーチの言葉だから、「これ」は、この文を指し示しているんだね。



ベテラン先生

指示する語句（こそあど言葉）は、文や文章をより簡潔に表現したり、文と文とのつながりなどを明瞭に表したりする役割をしています。そのため、指示する語句が何を指し示しているのかを考えると、指示する語句を含む文やその前後を丁寧に読み、文の意味を捉えるよう指導しましょう。

【「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」が一体となって働くような学習活動】

「モチモチの木」(光村図書三年下 P125)(東京書籍三年下 P46)

指導のポイント

「読むこと」の学習過程で、指示する語句が何を指し示しているのかを文脈に沿って考えること。

単元のゴール

豆太はどんな人物かを想像して伝え合おう



豆太は、どんな子だと想像できますか。



豆太は、おくびょうな子だと思います。「でも、豆太は、そうしなくっちゃだめなんだ。」と書かれているからです。



「そうしなくちゃ」は、何をすることなのでしょう。

【指示する語句に立ち止まって思考を促す発問】



その前にも「じさまは、かならずそうしてくれるんだ。」と書かれているよ。もっと前を読まないで、何をすることなのか分からないね。



その前の部分に書かれていることをまとめると、じさまにひざの中にかかえてもらって、「シー」と言ってもらおうことだと思います。



夜中にせっちんに行くときには、じさまにひざの中にかかえてもらって、「シー」と言ってもらわないとだめな豆太は、どんな子だと思いますか。

私も豆太は、おくびょうな子だと思います。昼間はモチモチの木にいばっているのに、夜になると、せっちんに行くときには、じさまにひざの中にかかえてもらって、「シー」と言ってもらわないとだめだからです。



児童の指示語が入った発言について、それをよしとせず、言い直させたり、問い返したりしながら何度も文章を丁寧に読ませることが大切です。

イ 事例2

相手や目的を意識して、「書くこと」の学習過程である構成の検討と内容の検討を往還する学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
八 1	書くこと	相手や目的を意識して、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。	思考・判断・表現

八 1 次の㉗～㉑のカードは、調べて分かったことをまとめたものです。【組み立てメモ】の 中 の㉒について文章を書くために必要なカードを二まいえらび、その記号を書きましょう。

㉗ 公民館のトイレ	㉘ 世界共通のマークで、名前は「しょうがい者のための国さいシンボルマーク」という。	㉙ 青と白の二つの色を使ったマークである。
㉚ お年よりや車いすの人が使いやすいように、広いスペースになっている。	㉛ 病院のエレベーター	㉜ 子どもや車いすの人がおしやすいうように、ボタンが低い位置にある。

正答例	誤答例	
エ・カ	イ・エ、ア・オ	
正答率	誤答率	無解答率
34.2%	59.7%	6.0%

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「相手や目的を意識して、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる」であり、正答率は34.2%と不十分である。この要因として、「書くこと」の単元において、指導事項の重点化が図られず、どの単元においても学習過程に沿って指導事項を順番に指導しているため、指導内容が定着しないことが考えられる。

指導に当たっては、相手や目的を意識し、伝えたいことが明確になるように文章の構成を検討したり、その過程で、集めた材料の比較・分類を通して内容を再検討したりするなど、構成の検討と内容の検討を往還する学習活動を充実させることが必要である。

③ 改善事例 第3学年

組み立てを考えて、ほうこくする文章を書こう
調べて書こう、わたしのレポート

光村図書三年上
東京書籍三年上

1 指導のねらい

- ・相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。(書くこと(1)ア)
- ・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。(書くこと(1)イ)

2 具体例

言語活動：身近なマークについて調べ、報告しよう(報告する文章)

単元計画	第一次	1 ・ 2	社会科の学習を振り返り、身近なマークについて調べて報告したいという意欲をもち、学習計画を立てる。
	第二次	3) 9	・方法を決めてくわしく調べ、調べて分かったことを比較・分類して伝えたいことを明確にする。 ・報告する文章の構成を考え、伝えたいことに合わせて書く内容(調べて分かったこと)を再検討する。 ・報告する文章を書いて、文章の構成について見直す。
	第三次	10) 12	報告する文章を読み合っ、文章の構成などについてよいところを伝え合い、学習を振り返る。



身近なマークについて調べたことを整理して、伝えたいことがはっきりしましたね。

若手先生

【組み立てメモ】の「終わり」には、伝えたいことを書くことができました。だけど、「中」に書くことは、まだはっきりしていません。



山田さんの例(R4基礎学力調査問題)を基にみんなで考えてみましょう。これは山田さんの報告する文章の【組み立てメモ】です。山田さんが一番伝えたいことは何ですか。



「まとめ」にある「多くの人が使うせつに、このマークがある。」こと、「このマークのある場所は、だれもが使いやすいようにくふうされている。」ことだと思います。

そうですね。そのことを読み手に伝えるために、山田さんは伝えたいことに合わせて、「中」に何を書こうとしていますか。【文章の構成を意識することで書く内容が明確になることに気付かせる発問】



「マークのある場所」と「マークのある場所で見られたくふう」です。「終わり」で伝えたいことがはっきりしているから、「中」に書くことが決まってくるんだね。



相手や目的を意識し、伝えたいことを明確にして構成を検討したり、その過程で、集めた材料を比較・分類することを通して書く内容を再検討したりするなど、「書くこと」における学習過程を往還しながら学習を進めていきましょう。

ベテラン先生

「マークのある場所」に書くことは、6枚のカードのうち、どれですか。



㉗の「公みん館のトイレ」と㉘の「病院のエレベーター」だと思います。



公みん館や病院は多くの人が使うせつで、それらのせつにマークがあるのだから、「マークのある場所」に合ったカードは、㉗の「公みん館のトイレ」と㉘の「病院のエレベーター」だと思います。



「終わり」の内容と「中」の内容がつながっているね。



その通りですね。それでは、「マークのある場所で見られたくふう」については、残りの4枚のうち、どれを選ぶとよいと思いますか。



㉑の「世界共通のマークで、名前は「しょうがい者のための国さいシンボルマーク」という。」かな。初めて知ったことだから、ぜひ伝えたいと思うんだけど・・・。



それは、くふうではないと思います。くふうだから、㉑の「青と白の二つの色を使ったマークである。」だと思います。どうしてかという、マークが目立つためのくふうだと思ったからです。



もう一度、「終わり」に書かれている伝えたいことを確認してみましょう。伝えたいことは、「このマークのある場所は、だれもが使いやすいようにくふうされている。」でしたね。



それなら㉑と㉒だと思います。いろいろな人が使いやすいように、どのような工夫があったのか書かれているからです。



伝えたいことに合わせて、「中」で書くことがはっきりしましたね。それでは、自分が書いている報告する文章も、伝えたいことに合った「中」の内容となっているかどうか、もう一度考えてみましょう。



指導の効果を高めるために、構成の検討の後で、再度内容の検討に戻ったり、不足している情報を再度収集させたりするなど、指導を工夫することが大切です。

R4基礎学力調査問題



【組み立てメモ】	
終わり	中
調べた理由 調べたこと 調べて分かったこと	調べた理由 調べたこと 調べて分かったこと
まとめる ・お年よりや車いすの人が使いやすいように広いスペースになっている。 ・公みん館のトイレ	まとめる ・お年よりや車いすの人が使いやすいように広いスペースになっている。 ・公みん館のトイレ
① 世界共通のマークで、名前は「しょうがい者のための国さいシンボルマーク」という。 ② 病院のエレベーター	① 世界共通のマークで、名前は「しょうがい者のための国さいシンボルマーク」という。 ② 病院のエレベーター
③ 子どもや車いすの人がおしやすいようにボタンが低い位置にある。 ④ 青と白の二つの色を使ったマークである。	③ 子どもや車いすの人がおしやすいようにボタンが低い位置にある。 ④ 青と白の二つの色を使ったマークである。

【調べて分かったことをまとめたカード】

【組み立てメモ】
はじめ
調べた理由 ・社会科で学習したマークが、スーパーマーケットの駐車場の他に、どのような場所にあるのか、知りたくなった。 ・町に出かけて調査したり、図書館の本で調べたりする。
調べて分かったこと ・①マークのある場所 ・②マークのある場所で見られたくふう ・多くの人が使うせつに、このマークがある。 ・このマークのある場所は、だれもが使いやすいようにくふうされている。 ・他のマークも調べてみた。

小学校第4学年 算数

県平均正答率	学校正答率
63.4%	%

(1) 全体的な傾向

令和4年度の平均正答率は63.4%で、3年度より10.4ポイント下回り、到達状況は十分とはいえない。「測定」領域の長さの単位換算は、3年度より25.9ポイント上回ったが、複数の条件にあてはまる時間を求めることは、依然として課題が見られる。「数と計算」領域では、根拠を明らかにして判断した理由を説明すること、「図形」領域では、長方形の定義について理解すること、「データの活用」領域では、目的に応じて適切なグラフを選ぶことに課題が見られた。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【数と計算】

(県平均正答率：74.8%) (学校正答率： %)

○：基本的な四則計算をすること〔1〕

設問1の正答率は82.3%であり、概ね良好である。今後も、計算の技能については、算数科の基礎となる能力として確実に身に付くよう、児童の学習状況を見ながら、適切な反復などの学習の機会を適宜設けて指導することが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1	(1) 繰り上がりのない加法計算	95.7%	%
	(3) 余りのない除法計算	78.2%	%
	(4) 3位数×2位数	71.8%	%

(県) H27～R3：1

▼：根拠を明らかにして、判断した理由を説明すること〔5〕

設問5の正答率は、3年度の関連する設問の正答率と比べると、5.6ポイント下回っており、不十分である。さらに、無解答率も12.4%と高い。要因としては、問題文から情報を読み取り整理させる指導や、判断の根拠を明確にして説明させる指導が不十分であると考えられる。指導に当たっては、判断の理由を考えさせる際に、根拠となる数値や数量の関係を見いださせる指導を工夫することや、児童の表現を的確に評価し、適切な言葉や式を用いた表現に洗練させる指導を行うことが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
5	根拠を明らかにした判断理由の説明	39.2%	%

(県) R3：事例1

(全) H30：B5(1) (県) R3：6(3)

【図形】

(県平均正答率：48.8%) (学校正答率： %)

▽：問題解決の過程を表現すること〔7〕

設問7の正答率は61.7%であり、平成28年度の関連する設問と比べると、正答率は7.5ポイント下回っており、十分とはいえない。要因としては、式が示す情報と図が示す情報を関連付ける指導が不十分であると考えられる。指導に当たっては、図、式等の数学的な表現を相互に関連付けながら、解釈したり、表現したりする活動を充実させる必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
7	問題解決の過程の説明【事実】	61.7%	%

(県) H28：4(3) H24：5(2)①

▼：長方形の定義を理解すること〔2(6)〕

設問2(6)については、p.14参照。指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
2 (6)	長方形の定義の理解	15.0%	%

(県) R3：事例2

(全) H27：A5(1) (県) R3：2(6)

- ・図形の定義（意味）と性質について、違いを明確にして指導すること
- ・児童が図形を構成する要素に着目し、図形の定義（意味）や性質の理解を深められるように、具体物を用いて可視化させたり、体感させたりして、図形の感覚を豊かにする指導を工夫すること

【測定】 (県平均正答率：58.0%) (学校正答率： %)

◇：長さの単位換算をすること〔8(1)〕

設問8(1)の正答率は、令和3年度の関連する設問の正答率と比べると、25.9ポイント上回っており、基準に到達している。今後も、直接見て捉えることが難しい1kmの長さを、「100mの10倍」「10mの100倍」といった関係を基に理解させるために、通学路などを想起させて学校から1kmの道のりに当たるところを調べてみる、運動場の200mのトラックを実際に5周歩かせてみる等、実感的に捉えられるよう指導を工夫することが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
8 (1)	長さの単位換算	79.4%	%

(県) H28：事例2

(県) R3：8(2) H23：3(3)

▼：複数の条件から、あてはまる時間を求めること〔8(3)〕

設問8(3)の正答率は、3年度の関連する設問の正答率と比べると、1.1ポイント下回っており、不十分である。要因としては、数直線上に表された時刻や時間を読ませる指導が不十分であることが考えられる。指導に当たっては、時計の長針が1周を越えたり正時をまたいだりする時刻や時間を求めさせる際に、模型の時計の針の動きや、数直線上の目盛りとその間について観察させることを通して考えさせることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
8 (3)	複数の条件から求められる時間	52.4%	%

(県) H27：事例1

(県) R3：8(3) H28：4(2)

【データの活用】 (県平均正答率：48.5%) (学校正答率： %)

▽：棒グラフのデータから特徴を捉えること〔6(3)〕

設問6(3)の正答率は64.1%であり、十分とはいえない。要因としては、2つの棒グラフを組み合わせたグラフについて、そのよさや特徴を捉えさせる指導が不十分であることが考えられる。指導に当たっては、2つの棒グラフを組み合わせたグラフを作成する際に、グラフから捉えた特徴や傾向を基に考察したことを、ほかの人にも分かるように伝える活動を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
6 (3)	データの特徴の読みとり	64.1%	%

▼：目的に応じて、適切なグラフを選ぶこと〔6(2)〕

設問6(2)については、p.16参照。指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
6 (2)	適切なグラフの選択	39.1%	%

- ・解決したい問題に応じて、適切な観点を定めた上で、データの分類整理を行うよう指導すること
- ・必要な情報を得るために、どのようなグラフが適しているのか児童が判断する学習活動を充実させること

指導改善のポイント

- 図形の意味やその特徴について、図形を構成する要素に着目して、理解を深める学習活動を充実すること (→ 事例1)
- 様々なグラフの特徴を理解し、目的に応じて、適切なグラフを選択する学習活動を充実すること (→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

ア 事例1
 図形の意味やその特徴について、図形を構成する要素に着目して、理解を深める学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
2 (6)	図形	長方形の定義について理解している。	知識・技能

2 (6) さとしさんとのおみさんは、図1の四角形Aが長方形であると考え、図2のように四角形Aのかどの形を調べることにしました。あとの②にあてはまる言葉を書きましょう。

図1

図2

おみさん

正答例	誤答例	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 4つのかどがみんな直角 ・ かどがみんな直角 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 向かい合う辺（2つの辺）が等しい長さ ・ 4つのかどがみんな同じ 	
正答率（準正答率）	誤答率	無解答率
15.0% (3.1%)	72.5%	12.5%

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「長方形の定義について理解している」であり、正答率は15.0%と不十分である。誤答については、向かい合う辺の長さに着目したものが最も多い。その要因としては、4つのかどがみんな直角という定義（意味）であるならば必ず長方形となるが、向かい合う辺が等しい長さ（性質）であっても長方形とならない場合があるということを、指導者が十分認識せずに指導していることや、図形の定義（意味）や性質について正しく理解させる指導が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、指導者自身が図形の定義（意味）と性質の違いについて理解した上で、児童に辺の長さや直角といった図形を構成する要素に着目させ、その図形についての理解を深める数学的活動を充実することが必要である。その際、「図形の性質」を用いても、その図形が構成できないことを実感させることで、改めて図形の定義（意味）と性質の違いから定義（意味）の重要性に気付かせることが必要である。

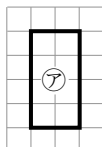
なお、「4つのかどがみんな同じ」のように、「直角」という用語を適切に使っていない誤答が多い場合は、3年度の事例2を参照すること。

③ 改善事例 第2学年「三角形と四角形」

1 指導のねらい

図形を構成する要素に着目する活動を通して、図形の定義（意味）や性質を正しく理解することができる。

2 具体例



⑦の図形が長方形だと判断した理由を述べる活動で、「向かい合う辺の長さが同じだから」と答える児童が多かったのですが、どのような指導したらよいのでしょうか。



若手先生



ベテラン先生

児童は、長方形の定義（意味）と性質を混同していますね。先生は、その違いが分かりますか？



ベテラン先生

定義（意味）の「4つのかどがみんな直角になっている四角形」からは長方形を作図できますが、性質の「向かい合う2つの辺の長さが同じ四角形」からは長方形を作図できないことがあります。



若手先生

先生が理解している違いを、児童に体感を通して理解させたり、理解したことを表現させて定着を図ったりする学習活動を充実させる必要がありますね。



若手先生

では、どのように指導したらよいのでしょうか。

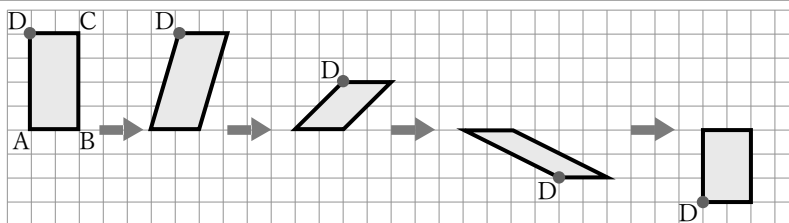
【長方形の定義（意味）と性質の違いを明確にする活動】



ベテラン先生

「向かい合う辺の長さが同じ」という性質を用いても長方形を構成できないということを、具体物を用いて可視化させたり、体験させたりして実感させましょう。

下の図のように、1人1台端末を用いて図形を動的に変化させることで、向かい合う辺の長さが等しくても必ずしも長方形にならないことや、長方形になるためには「4つのかどがみんな直角」でなければならないことに気付かせることができます。



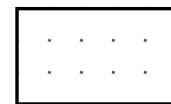
算数・数学の学習用デジタルツールや、工作用紙とハトメで作成した模型などを効果的に活用し、図形についての感覚を豊かにすることで、児童の気付きにつなげましょう。

【長方形の定義（意味）を表現する活動】



ベテラン先生

右の図のように、方眼ではなく格子状に並んだ点を結んで、正方形や長方形を作図させる活動もあります。直角を児童に作図させることで、図形の構成要素の特徴を捉えさせることができます。さらに、「どういうことに気を付けながら作図したの？」と問うことで、定義（意味）の理解について確認することができますね。



【正しい表現を身に付ける活動】

定義（意味）で用いられる直角などの表現を使えていない児童には、どう指導すればよいのでしょうか。



若手先生



ベテラン先生

発問する際に、正しい表現を使わせることを意識しましょう。間違いや不十分な表現をした児童がいた場合は、定義（意味）で用いられる表現を想起させるような問い返しを行い、正しい表現に気付かせましょう。（R3指導事例 事例2参照）

イ 事例2

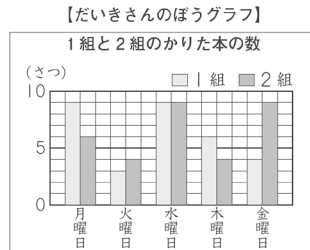
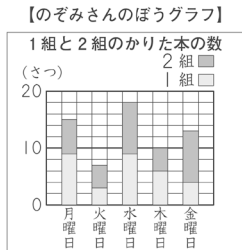
様々なグラフの特徴を理解し、目的に応じて、適切なグラフを選択する学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
6(2)	データの活用	目的に応じて、適切なグラフを選ぶことができる。	思考・判断・表現

6 ひかりさんたちは、4年1組と2組の人たちが、ある1週間に図書館からかりた本の数を調べました。次の問いに答えましょう。

のぞみさんとだいきさんは、かりた本の数を曜日ごとに調べ、それぞれ下のようなぼうグラフにまとめました。



ひかりさんとさとしさんは、【のぞみさんのぼうグラフ】と【だいきさんのぼうグラフ】を見て、次のように言いました。

それぞれの曜日の、1組と2組のかりた本の数の合計がわかりやすいのは、さんのぼうグラフだよ。



(2) にあてはまる人の名前を書きましょう。

正答例		誤答例	
のぞみ (さん)		だいき (さん)	
正答率	39.1%	誤答率	57.1%
		無解答率	3.8%

② 指導改善に向けて

本設問のねらいは、「目的に応じて、適切なグラフを選ぶことができる」であり、正答率は39.1%と不十分である。誤答については、もう一方のだいきさんのグラフを選択したものが57.1%と正答率を上回っている。この要因としては、データを整理する観点に着目し、身の回りの事象について表やグラフを用いて考察して、見いだしたことを表現させたり、目的に応じて適切なグラフを選択して表現させたりする指導が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、集めたデータを、解決したい問題に応じて定めた観点によってグラフに表し、そこから見いだした特徴や傾向、考えたことをグラフと対応させながら表現させたり、目的に応じて適切なグラフを選択させたりする学習活動を充実させることが必要である。

③ 改善事例 第3学年「表と棒グラフ」

1 指導のねらい

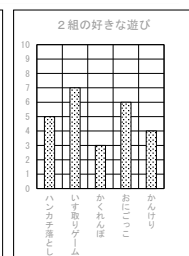
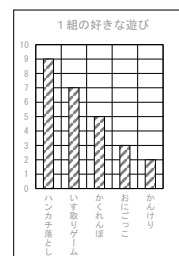
グラフの特徴や傾向を捉え、適切なグラフを用いて考察したことを説明することができる。

2 具体例 棒グラフを組み合わせたグラフから特徴を捉える活動

1組と2組の「好きな遊び」アンケートの結果の棒グラフを組み合わせると、どんなことが分かるのか考えてみましょう。



1組と2組の結果は右のような棒グラフにまとめてあります。

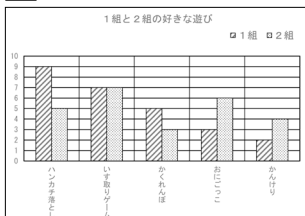


(1) 組み合わせた棒グラフの特徴を捉える学習活動

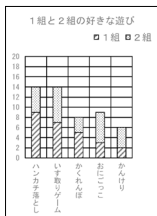


1組と2組の結果を組み合わせた棒グラフを、**A**と**B**の2種類用意しました。それぞれどんな特徴がありますか。

A



B



Aのグラフは1組と2組の棒グラフが隣同士に並んでいます。

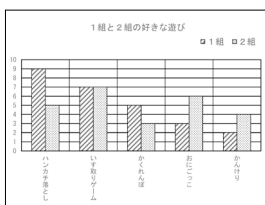


Bのグラフは1組の棒グラフの上に2組の棒グラフが積み重なっています。



2種類のグラフは、それぞれ見る人が分かりやすいように工夫して組み合わせたグラフですが、その工夫の仕方が違いますね。

まず、**A**のグラフでは、どんなことが分かりやすいように工夫されていますか。



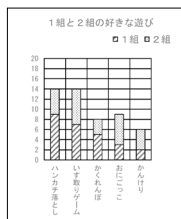
それぞれのクラスで、どの遊びを選んだのか人数が分かりやすいです。例えば、1組は「ハンカチ落とし」が9人で最も人気があり、2組は「いす取りゲーム」が7人で最も人気があることが分かります。



Aのグラフは、1組と2組の棒グラフを並べて表しているのので、1組と2組の人数の違いが分かりやすいです。例えば、「ハンカチ落とし」の差は4人だと分かります。



次に**B**のグラフは、どんなことが分かりやすいように工夫されていますか。



Bのグラフは、積み重なっているので2クラスの合計人数が分かりやすいです。例えば、棒の長さが最も長い「ハンカチ落とし」と「いす取りゲーム」の人数は、2クラス合わせて14人であることが分かります。



それぞれの棒グラフを児童の1人1台端末に送付することで、児童がグラフ上で着目した部分や考えの根拠となる部分を指し示しながら、説明する場面をつくることができます。

(2) 目的に応じて適切なグラフを選択する学習活動



2クラス合わせて最も人気のある遊びが何か知りたいときは、どちらのグラフを選びますか。また選んだ理由も言いましょう。

Bのグラフを選びます。なぜなら、2クラスの合計人数が分かるので、棒の長さが1番長い遊びを見れば分かるからです。



クラスごとに好きな遊びの違いはあるのかを知りたいときは、どちらのグラフを選びますか。また選んだ理由も言いましょう。

Aのグラフを選びます。なぜなら、棒の長さから、1組と2組の人数の違いが分かるからです。



目的や場面に応じて、どちらのグラフを用いると効果的かを児童に判断させ、理由を説明させることで、目的に応じて適切なグラフを選択する力の定着を図ります。

〔第4学年〕「折れ線グラフ」
表、棒グラフ、折れ線グラフの中から目的に応じた
表し方を選択する学習活動

〔第5学年〕「円グラフや帯グラフ」
円グラフと帯グラフを比較し、それぞれの特徴を捉
える学習活動

小学校 第6学年 「社会」

小学校第6学年 社会

県平均正答率	学校正答率
68.3%	%

(1) 全体的な傾向

令和4年度の平均正答率は68.3%で、3年度より3.2ポイント上回ったが、到達状況は十分とはいえない。廃棄物を処理する事業の様子を理解することについては、基準に到達している。しかし、複数の資料から読み取った情報を関連付けて、適切に表現することについては、依然として課題が見られる。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【地域学習】

(県平均正答率:76.7%) (学校正答率: %)

◎：ごみの量に関する情報を、資料から読み取ること〔4(2)〕

設問4(2)の正答率については、90.0%であり、良好である。今後も、基礎的な知識・技能の定着に向けて、グラフから適切に読み取った情報を比較して表現させる指導が大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
4(2)	ごみの量の変化	90.0%	%

(県)H28：事例1

(県)R3：4(2) H29：6(1)

○：石川県の伝統的な産業の現状について、資料を基に考察し、適切に表現すること〔1(4)A〕

設問1(4)Aの正答率については、80.0%であり、概ね良好である。今後も、県内の伝統や文化について、保存や継承のための取組に着目して、資料から読み取った情報を基に社会的事象の特色や意味を捉え、適切に表現させる指導が大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1(4)A	石川県の伝統的な産業(継承)	80.0%	%

(県)H29：1(3)B

▽：実際の距離や位置を地図帳を用いて読み取ること〔1(2)(3)〕

設問1(2)(3)の正答率については、65.4%であり、十分とはいえない。要因としては、県の地図や地図帳を用いて、必要な情報を読み取らせたり、白地図にまとめさせたりする活動が不十分であったと考えられる。指導に当たっては、地図帳を日常的に活用し、地図の見方や索引の引き方などの基礎的な技能の定着を図ることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1(2)	縮尺の活用	63.7%	%
1(3)	石川県の県庁所在地(金沢市)	67.1%	%

(県)R3：1(1)④⑤ R2：1(1)③

▼：消防署の緊急時への備えや対応について、複数の資料を基に考察し、適切に表現すること〔3(3)〕

設問3(3)の正答率については、30.6%であり、不十分である。要因としては、表や文章、図など異なる種類の資料を比較したり、関連付けたりして、必要な情報を読み取らせる指導が不十分であったと考えられる。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
3(3)	緊急時に備えた消防士の勤務の様子	30.6%	%

(県)R3：事例1

(県)R3：6(3) R1：3(3)

指導に当たっては、3年度の改善事例を参照し、次のような点を充実させることが必要である。

- ・表や文章、図など異なる種類の資料を一つ一つ丁寧に読み取り、キーワードなどで整理すること
- ・読み取った情報同士を関連付けて考え、適切に表現する学習活動を工夫すること

【産業と国土】

(県平均正答率:59.4%) (学校正答率: %)

○：様々な工業の種類について理解すること〔5(1)〕

設問5(1)の正答率については、82.9%であり、概ね良好である。今後も、社会的事象に関する理解を図る際に、具体的事象や事例と関連付けて理解させることが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
5(1)	工業の種類(工業製品の分類)	82.9%	%

(県) R3 : 3(1)

◇：日常生活において必要な情報を入手する方法について理解すること〔6(1)〕

設問6(1)の正答率については、72.4%であり、基準に到達している。今後も、情報の種類や情報の活用の仕方などに着目して、産業や国民生活における情報活用の現状を捉えさせることが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
6(1)	メディアの種類と特徴	72.4%	%

(県) H29 : 4(1)

▼：我が国の領土の範囲(経度)などを読み取ること〔2(2)②〕

設問2(2)②については、p.22参照。指導に当たっては、次のような点を充実させる必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
2(2)②	日本の位置と領土 (東端の経度)	17.3%	%

(県) R3 : 2(1)③

- ・世界における我が国の国土の位置について、緯度や経度を用いて説明することのよさを理解させる学習活動を充実させること

▼：工業の盛んな地域の分布や生産額について、資料から読み取ること〔5(2)〕

設問5(2)については、p.24参照。3年度の指導事例では、資料から読み取った情報を白地図等にまとめることで資料から情報を読み取る技能の定着を図ることをねらったが、今年度は、資料から情報を読み取る技能を高めるためのポイントを示すことで、基礎的な資料を活用し、読み取った情報を関連付けて考察する力の育成をねらいとしている。指導に当たっては、次のような点を充実させる必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
5(2)	日本の工業の特色 (分布と生産額)	26.7%	%

(県) R3 : 事例2

(県) R3 : 5(1)

- ・資料から何を読み取らせたいのかについて、整理・分析すること
- ・的確な問い返しをすることで、児童の新たな気づきを促したり、考察を深めたりするよう学習活動を充実させること

指導改善のポイント

- 世界における我が国の位置や構成などに着目して、地図や地球儀、各種の資料を使って我が国の特色を考え、表現する学習活動を充実すること (→ 事例1)
- 各種グラフや統計資料、地図などの基礎的な資料を活用し、読み取った情報を関連付けて、考察する学習活動を充実すること (→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

ア 事例1
 世界における我が国の位置や構成などに着目して、地図や地球儀、各種の資料を使って我が国の特色を考え、表現する学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
2 (2) ②	産業と国土	我が国の領土の範囲などを読み取ることができる。	知識・技能

2 (2) かなさんは、日本の領土と位置についてノートにまとめました。学校で使っている地図帳[帝国書院29～30ページ]を参考にして、あとの問いに答えましょう。

【かなさんのノート】

○日本の領土

- ・ 北のはし… 択捉島えとろふとう
- ・ 南のはし… (A)
- ・ ①東のはし… 南鳥島みなみどりしま
- ・ 西のはし… 与那国島よなぐにじま

○日本のまわりの国

- ・ 札幌市さっぽろに最も近い国… ②ロシア連邦れんぽう
- ・ 福岡市ふくおかに最も近い国… 大韓民国だいかんみんこく

○日本の位置

- ・ 日本は、ユーラシア大陸の東に、太平洋の西に位置している。

② 下線部①について、日本の東のはしの経度を書きましょう。

正答例	誤答例	
東経 153 度 (°) 59 分 (')	153 度 59 分 東経 122 度 55 分	
正答率	誤答率	無解答率
17.3%	74.7%	8.0%

② 指導改善に向けて

本設問のねらいは、「我が国の領土の範囲などを読み取ることができる」であり、正答率は17.3%と不十分である。誤答としては、「東経」の記載のない数値のみの解答が最も多く、与那国島の経度を記載する解答も見られた。この要因としては、地図帳を活用して我が国の国土の位置と領土について捉える際に、方位や緯度と経度を用いて表現させる指導が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、学習指導要領の「地図帳や地球儀を用いて、方位、緯度や経度などによる位置の表し方について取り扱うこと」を踏まえ、緯度や経度を使って、世界における日本の国土の位置を説明する学習活動を充実させることが必要である。その際、「北緯・南緯」、「東経・西経」を使って表現することで、示す場所を1カ所に限定できることを理解させ、その技能を身に付けさせることが大切である。

③ 改善事例 第5学年「我が国の国土の様子」

1 指導のねらい

地図や地球儀を活用して、世界における我が国の位置について、緯度や経度を使って表現することができる。

2 具体例

【学習問題】〈日本の国土は世界のどこに位置しているのかな〉



前は、日本の国土の位置を大陸や海洋、周りの国々などを使って説明できましたね。今回は、日本の位置をもっと詳しく説明するのに、他の方法がないか考えていきましょう。



前の時間に習った、緯度と経度を使えば、日本の位置を詳しく説明することができるのではないかな。

では、その緯度と経度を用いると、日本の国土の東の端はどのように表すことができますか。

日本の東の端にある南鳥島は、緯度は24度17分、経度は153度59分の位置にあると表すことができます。



地図帳には、数値だけでなく、「北緯」や「東経」という言葉が付いているけど、この言葉は付けなくていいのかな。



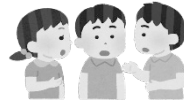
それなら、「北緯」や「東経」という言葉が必要かどうか、地球儀を使って考えてみましょう。

【地図1】

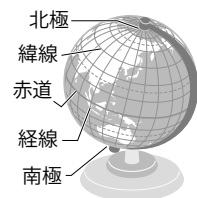


ポイント①：緯度と経度で表すことの意義について、地球儀を使って考察し、「北緯」、「東経」の言葉を使うことの必要性を実感させる。

あれ、150度の経線が2本あるよ。「153度59分」だけだと、日本なのか、アメリカなのか分からないね。



緯度も同じように、「北緯」や「南緯」の言葉を付けなかったら、経度が同じでも、日本かオーストラリアか区別できないね。



「北緯」や「東経」の言葉を使わないと、世界の中のたった一つの場所を表すことができないんだね。

ポイント②：地図を使って「北緯」や「東経」を使うことよさについてまとめる。



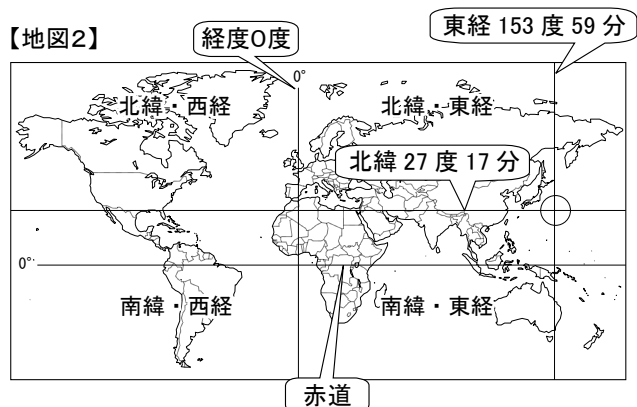
緯度や経度の数値だけでは、正確な位置を示していることにならないことが分かりました。「北緯」や「東経」という言葉を使うと、世界の中で1か所だけに限定できるから、大事な言葉だと思いました。

必要性を実感



そうですね。【地図2】のように、世界は赤道と経度0度の経線によって4つに分割されます。北緯や東経などを区別して使うと、どんな場所でも、正確な位置を表現することができますよ。

【地図2】



イ 事例2

各種グラフや統計資料、地図などの基礎的な資料を活用し、読み取った情報を関連付けて、考察する学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

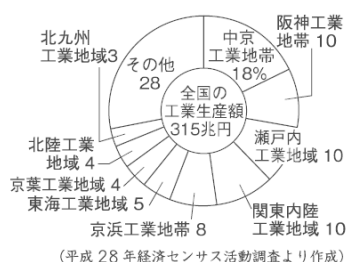
設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
5 (2)	産業と国土	工業の盛んな地域の分布や生産額について、資料から読み取ることができる。	知識・技能

5 (2) あおいさんは、日本の工業地帯や工業地域について調べました。資料1と資料2から、日本の工業の特色としてあてはまるものを、あとのア～エから2つ選び、その記号を書きましょう。

【資料1】 日本の工業地帯や工業地域の分布



【資料2】 日本の主な工業地帯や工業地域の工業生産額の割合



- ア 日本の工業地帯や工業地域は、全て海沿いにある。
- イ 阪神工業地帯の工業生産額は30兆円をこえている。
- ウ 太平洋ベルトの工業生産額は日本全体の2分の1以上をしめている。
- エ 生産額が一番多い工業地帯は、5つの県にまたがって広がっている。

正答例	誤答例	
イ・ウ	ア・ウ、ア・イ、ア・エ	
正答率	誤答率	無解答率
26.7%	69.9%	3.4%

② 指導改善に向けて

本設問のねらいは、「工業の盛んな地域の分布や生産額について、資料から読み取ることができる」であり、正答率は26.7%と不十分である。特に、アを選択している児童が多いのは、資料から読み取った情報と文章の内容を結び付けた上で、正確な情報かどうかを判断することができなかつたためであると考えられる。この要因として、様々な種類の資料を活用させること、そこから読み取った情報を関連付けて考察させること、そして、考察した内容が正しいかどうか、再度資料に戻って確認させることが不十分であると考えられる。

指導に当たっては、各種グラフや統計資料、地図などの基礎的な資料から、様々な情報を丁寧に読み取る学習活動を充実することが大切である。その際、教師が、資料から何を読み取らせたいのかについて、しっかりと整理・分析する必要がある。その上で、資料から情報を読み取ったり、読み取った情報を関連付けたりする際の視点を整理し、的確な問い返しをすることで、児童の気付きや考察を深め、情報を読み取る技能の向上につなげることができる。

また、令和3年度の改善事例2を参考に、白地図等にまとめて表現する学習活動を取り入れることで、情報をまとめる技能の定着を図ることもできる。

③ 改善事例 第5学年「我が国の工業生産」

1 指導のねらい

基礎的な資料を活用し、読み取った情報を関連付けて、考察することができる。

2 具体例



資料から情報を読み取って、適切に考察する力を育成するポイントはなんでしょうか。



大事なことはまず、使う資料から何に気付かせたいかを、教師自身が明確にしていることです。そうすれば、的確な読み取りに向けて、児童に提示する「視点」や不十分な児童への的確な「問い返し」を工夫することができます。

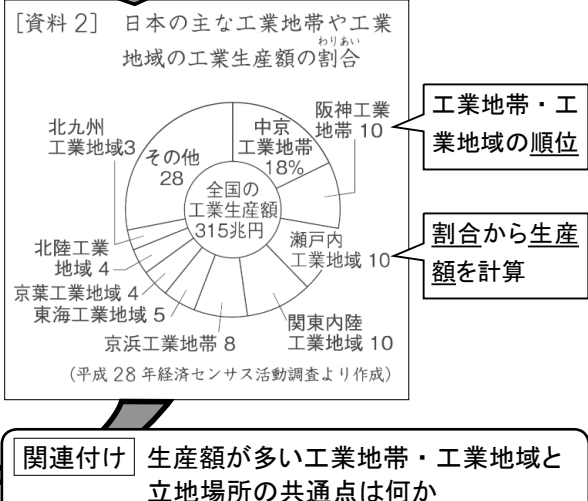
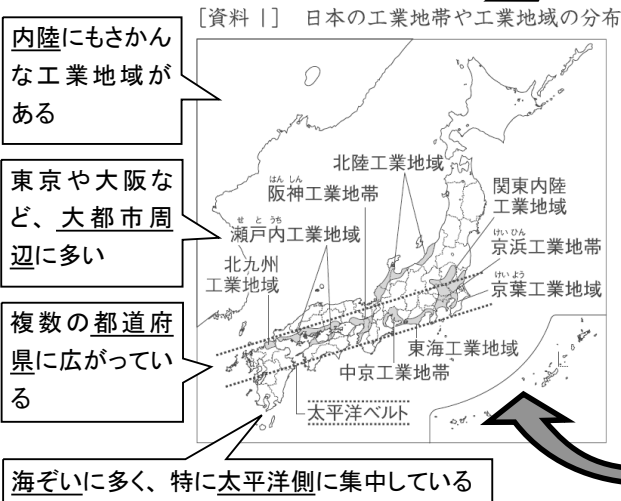
読み取る視点の例

- ・表題、出典、年代 ・位置、広がり
- ・単位、目盛り ・量、割合
- ・変化の様子(大小、差、倍、傾き)等

では、次の資料1と資料2からはどのようなことに気付かせたいか、整理してみましょう。

<整理の例>

関連付け 工業地帯・工業地域の立地場所と生産額にはどんな関係があるか
多くの都道府県に広がっている工業地域と生産額にはどんな関係があるか



資料1は、位置と広がり視点で、資料2は、割合と金額視点で整理しました。そして、それぞれを関連付けて考察する視点も整理し、日本の工業地帯・工業地域がどのように分布し、どのような特徴があるのかについて考察させたいです。



では、どのように発問していきますか。

資料1から、日本の工業地帯や工業地域はどのような場所にあるかと問い、「海ぞいに多いです」という児童の発言に対して、「どの海に多いかな?」、「海ぞい以外の場所にはないの?」などと問い返し、再度資料を確認させることで、太平洋側に広がっていることや関東内陸工業地域に注目させます。

そうですね。大事なポイントは、①図やグラフ、表、文章など、どんな資料を使うにも、資料をしっかり分析すること。②的確な問い返しにより、児童の読み取りの不足を補うこと。③問い返すことで、再度資料を確認させる(資料と自分の考えを「往還」させる)ことです。また、どのような視点で資料を関連付けるかを明確にすることも、資料を基に考察するためには必要です。

資料1と資料2を関連付けて考察させることで、「なぜ、海ぞいがない関東内陸工業地域の生産額は多いのか」や「どうして、中京工業地帯は、含まれている都道府県数は1番ではないのに、生産額が1番なのか」などの新たな疑問を引き出し、学習問題につなげることもできますね。



複数の資料を関連付けさせる例

- ・分布、地域、範囲(位置や空間的な広がり)などの視点を示す
「どのような場所にあるか」
「どのように広がっているか」
- ・比較・分類、統合させるような問い返しをする
「どのような違いや共通点があるか」
- ・理由・背景を問う
「なぜこのようになっているのか」
「何のためにあるのか」など

中学校 第3学年
「社会」「英語」

中学校第3学年 社会

県平均正答率	学校正答率
60.6%	%

(1) 全体的な傾向

令和4年度の平均正答率は60.6%で、3年度より3.6ポイント上回ったが、到達状況は十分とはいえない。地理的事象に関する基礎的な知識の理解については概ね良好であるが、地理的、歴史的分野ともに、複数の資料から読み取った情報を基に、社会的事象の意味や意義などを適切に表現することについては、依然として課題が見られる。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【地理的分野】

(県平均正答率:68.3%) (学校正答率: %)

◎：世界を代表する大陸や海洋の基礎的な知識や、国の名称と位置について理解すること〔1(1)(2)〕

設問1(1)(2)の正答率については、92.2%であり、良好である。今後も意図的・計画的に地図帳や地球儀、白地図を活用するなど、学習活動を工夫して基本的な知識や位置について理解させることが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1	(1) A 六大陸（南アメリカ大陸）	90.6%	%
	(1) B 三大洋（インド洋）	90.8%	%
	(2) 国名（オーストラリア）	95.1%	%

(県) R3：1(1) R2：1(1)

○：資料から読み取ったことを基に課題（学習課題）をつくること〔4(6)〕

設問4(6)の正答率については、81.5%であり、概ね良好である。今後も、社会的事象の特色を捉えることに適した資料を意図的に提示し、生徒が気付いたことや疑問に思ったことなどを資料を基に発言させるなど、学習課題の設定につながる工夫をすることが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
4(6)	北九州工業地帯（地域）の変化 （学習課題）	81.5%	%

(県) H29: 事例1

(県) R3：4(3) R2：1(5) ③

▼：鹿児島県の農業の特色について、複数の資料を基に考察し、適切に表現すること〔4(4)②〕

設問4(4)②の正答率については、48.5%であり、不十分である。要因として、複数の資料から読み

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
4(4)②	鹿児島県の農業の特色	48.5%	%

取った情報を基に、地域的特色について表現する学習活動が不十分であると考えられる。指導に当たっては、地理的な見方・考え方を働かせ、資料から読み取った情報と既習の知識を比較したり、関連付けたりして考察した地域的特色を、適切に表現する学習活動を充実させることが必要である。

▼：地形図を読み取り、その土地の特徴を判断すること〔4(5)〕

設問4(5)については、p.30参照。指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
4(5)	土地の特徴（地形図の活用）	27.5%	%

(県) R3：4(4)

- ・地形図を活用し、等高線、方位、距離、地図記号を的確に読み取り、地域的特色を捉えること
- ・1人1台端末を活用するなどして、地形の特徴を立体的に捉える学習活動を工夫すること

【歴史的分野】

(県平均正答率:54.3%) (学校正答率: %)

◇：明治時代の文明開化における社会の変化を判断すること〔5(3)〕

設問5(3)の正答率については、70.4%であり、基準に到達している。今後も、歴史的事象と人々の生活の変化を関連付けて、適切に表現する学習活動を工夫することが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
5(3)	文明開化による社会の変化	70.4%	%

▽：古代における基礎・基本となる歴史上の人物や事象について理解すること〔2(1)(3)(4)①〕

設問2(1)(3)(4)①の正答率については、68.2%であり、十分とはいえない。指導に当たっては、古代までの日本において、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられていったことや、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基盤としながら文化の国風化が進んだことを理解させる学習活動を工夫することが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
2(1)	歴史上の人物(卑弥呼)	80.3%	%
2(3)	歴史上の事象(東大寺)	58.4%	%
2(4)①	歴史上の事象(国風文化)	66.0%	%

(県) H30: 2(4)① H29: 2(1)

▼：欧米における基礎・基本となる歴史上の人物や事象について理解すること〔5(1)(2)〕

設問5(1)(2)の正答率については、55.4%であり、不十分である。指導に当たっては、欧米諸国の工業化と政治や社会の変化などに着目して、欧米諸国が市場や原料供給地を求めてアジアへ進出したことが、日本の政治や社会にどんな影響を与えたかについて考察させる学習活動が必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
5(1)	歴史上の事象(アメリカ独立戦争)	51.3%	%
5(2)	歴史上の人物(リンカン)	59.5%	%

▼：歴史的事象について、複数の資料を基に考察し、適切に表現すること〔2(4)②、3(3)ab、5(6)〕

設問2(4)②、設問3(3)abの正答率については、40.4%であり、不十分である。複数の資料から考察したことを、題意を踏まえて適切に表現できていない誤答が見られた。設問5(6)については、p.32参照。指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
2(4)②	藤原氏が栄えた理由	28.2%	%
3(3)a	鎌倉幕府の主従関係のしくみ	48.8%	%
3(3)b	鎌倉幕府の主従関係のしくみ	44.2%	%
5(6)	日比谷焼き打ち事件の原因	52.0%	%

(県) R3: 事例2 (県) R3: 5(3)② H30: 2(4)② H28: 3(4) H27: 5(5)

・複数の資料から読み取った情報を基に、歴史的事象が起こった背景や影響などについて考察し、歴史的事象の意義について、適切に表現する学習活動を充実させること

指導改善のポイント

- 地形図を活用し、地域で見られる特色など必要な情報を的確に読み取り、適切に表現する学習活動を充実すること (→ 事例1)
- 複数の資料から読み取った情報を基に、歴史的事象の意義について適切に表現する学習活動を充実すること (→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

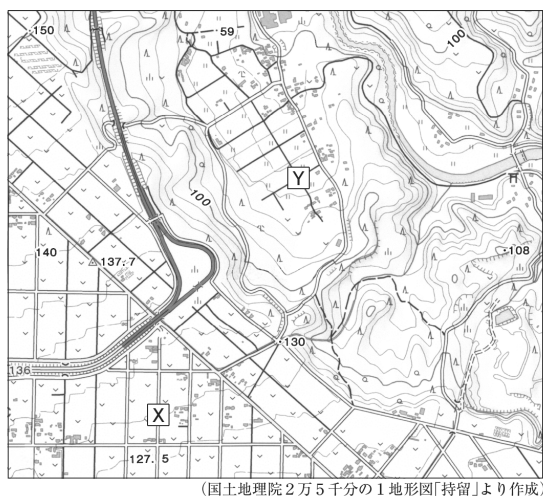
ア 事例1
 地形図を活用し、地域で見られる特色など必要な情報を的確に読み取り、適切に表現する学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
4 (5)	地理的分野	地形図を読み取り、その土地の特徴を判断することができる。	思考・判断・表現

4 (5) 次の地形図は、鹿児島県鹿屋市内の地形図である。あとの□は、花子さんが、この地形図の土地の様子や利用についてノートにまとめたものである。【花子さんのノート】の①、②にあてはまる語句の組み合わせとして正しいものを、あとのア～エから1つ選びなさい。

[地形図]



【花子さんのノート】

□は、北西から南東に向かうゆるやかな傾斜地で、Yに比べて標高が (①)。また、□の付近の土地は、主に (②) として利用されている。

- ア ①高い ②畑 イ ①高い ②田 ウ ①低い ②畑 エ ①低い ②田

正答例	誤答例	
ア	ウ、エ、イ	
正答率	誤答率	無解答率
27.5%	72.4%	0.1%

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「地形図を読み取り、その土地の特徴を判断することができる」であり、正答率は27.5%と不十分である。誤答については、ウが最も多いことから、地図記号は正しく読めているが、等高線を正しく読むことができていないと考えられる。この要因として、等高線や地図記号など地形図を読み取る地理的技能の定着が弱く、地形図を立体的に捉え、土地活用の様子などについて考察する学習活動が不十分であると考えられる。

指導に当たっては、地形図を活用し、等高線、方位、距離、地図記号を的確に読み取り、地形の特徴や土地活用の様子などの地域的特色を適切にまとめたり、説明したりする学習活動を充実させる必要がある。その際、1人1台端末を活用するなどして、断面図の確認、航空写真や過去の地形図との比較などを通して地域的特色を考察する活動を取り入れることも大切である。

③ 改善事例 第2学年「地域調査の手法 地形図の使い方」

1 指導のねらい

地形図を活用し、地域で見られる特色など必要な情報を的確に読み取り、適切に表現することができる。

2 具体例

学習課題 <地形図を的確に読み取り、どのような地域的特色が見られるのか説明しよう>



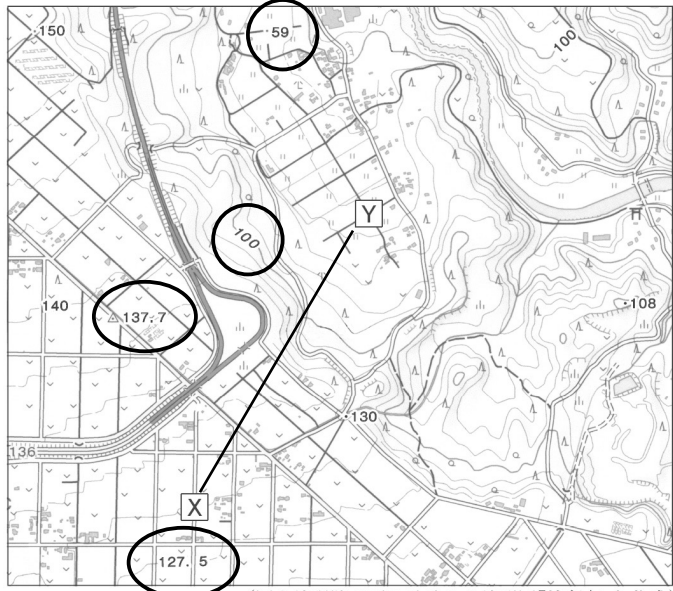
この地形図は鹿児島県鹿屋市のものです。地形図から、この地域の特色を読み取りましょう。

地形図の中心から北東にかけて等高線がたくさん見られて、南西には平地が広がっているね。南西から北東にかけて標高が高くなっていると考えられるね。



標高を確認するには、何に注目することが大切でしたか？

標高を示す数値を探すことです。等高線にも数値が書いてあるし、標高を示す地図記号もあります。



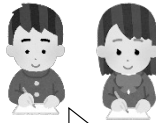
(国土地理院 2万5千分の1地形図「持留」より作成)

ポイント①：地形図から地形の特徴を読み取らせ、断面図をイメージさせる。



そうですね。等高線のうち、太い線で表された「計曲線」と、標高を示す地図記号である「三角点」に注目すると、この地形の特徴が読み取れますね。では、**X**地点から**Y**地点にかけての断面図を考えてみましょう。

X地点の付近に標高を示す 127.5 の数値や標高 137.7m を示す三角点があるね。**Y**地点の北には 59 の数値も見えるよ。それぞれを○で囲もう。



三角点の北東に見える計曲線は 100m を示しているね。色ペンでなぞったら分かりやすくなるね。

X地点の方が**Y**地点よりも標高が高いよ。**X**地点と**Y**地点の間に等高線の間隔が狭い場所もあるから、急な崖の下に**Y**地点があるみたいだね。断面図は台形に近い形かな？

ポイント②：立体的に捉えるために1人1台端末を効果的に使い、地域的特色を読み取る。

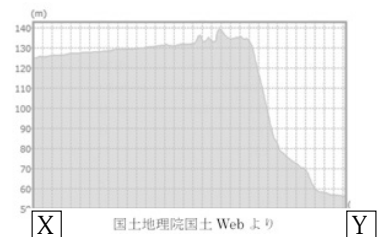


では、国土地理院の電子国土 Web を使って確認しましょう。

電子国土 Web で調べると、とても分かりやすいね。断面図を見ると、**X**地点は台地の上にある地域だと判断できます。



では、地形図と電子国土 Web を使ってもう少し地域の特色を調べてみましょう。



国土地理院国土 Web より

X地点には畑、**Y**地点には田を示す地図記号が見えるね。電子国土 Web の航空写真で見ると、畑が広がっている様子が分かりやすいよ。



電子国土 Web には鹿屋市の 1970 年代の航空写真があったよ。高速道路はまだ建設されていないけど、畑は今と同じように広い範囲で見られるよ。

まとめ：鹿屋市には、標高 100 m を超える台地が広がっており、昔から畑作が盛んな地域であるという地域的特色が見られます。



イ 事例2

複数の資料から読み取った情報を基に、歴史的事象の意義について適切に表現する学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
5 (6)	歴史的分野	日比谷焼き打ち事件がおこった理由について、複数の資料を基に考察し、適切に表現することができる。	思考・判断・表現

5 (6) F, Gについて、資料2と資料3は、この二つの戦争を比較したものである。1905年に日比谷焼き打ち事件が発生したが、この事件の原因を、資料2と資料3をもとに書きなさい。

[資料2] 戦費と戦死者数の比較

	日清戦争	日露戦争
日本の戦費	2.3億円	18.3億円
日本の戦死者数	1.4万人	8.5万人

[資料3] 戦争後に結んだ条約の比較

	日清戦争後に結んだ下関条約の主な内容 (1895年)	日露戦争後に結んだポーツマス条約の主な内容 (1905年)
領土	○清は、遼東半島、台湾、澎湖諸島を日本にゆずる。	○ロシアは、北緯50度以南の樺太を日本にゆずる。
権利等	○清の開港場で製造業を営む権利を日本に与える。	○ロシアは、遼東半島の租借権と長春から旅順の間の鉄道を日本にゆずる。 ○ロシアは、日本海・オホーツク海・ベーリング海のロシア領沿岸の漁業権を日本に与える。
賠償金	○清は、賠償金2億両(当時の日本円で約3億1千万円)を日本に支払う。	なし

[年表]

年	おもなできごと	
1776	アメリカが独立宣言を発表する	… A
1861	南北戦争が起こる	… B
1872	日本が新しい暦を採用する	… C
1875	樺太・千島交換条約が結ばれる	… D
	(Y) が起こる	… E
1876	日朝修好条約を結ぶ	
1894	日清戦争が起こる	… F
1904	日露戦争が起こる	… G
1905	日比谷焼き打ち事件が起こる	

正答例	誤答例	
<ul style="list-style-type: none"> 日露戦争は日清戦争に比べ、戦費や死者など代償が大きかったにも関わらず、賠償金を得ることができなかつたため、政府に不満をもつたから。 	<ul style="list-style-type: none"> 日清戦争に比べて日露戦争は戦費も戦死者も多かつたので、人々の不満が高まつたから。(資料2のみの解答) 日露戦争で日本は勝利したのに、賠償金をもらえなかつたから。(資料3のみの解答) 戦争による被害が大きかつたのに、賠償金が得られなかつたから。(表現が不十分な解答) 	
正答率 (準正答率)	誤答率	無解答率
52.0% (45.4%)	33.2%	14.7%

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「日比谷焼き打ち事件がおこった理由について、複数の資料を基に考察し、適切に表現することができる」であり、正答率は52.0%と不十分である。日露戦争について、資料2と資料3を比較・関連付けることで読み取った情報が、当時の人々にどのような影響を与えたのかについて表現することをねらつたものであるが、誤答としては、資料2と資料3を関連付けて答えるのではなく、どちらかの資料の内容にしか触れていない解答が多く見られた。また、資料から読み取った情報のみを記述して、考察したこと(どの戦争が、どのような結果で、どんな影響を与えたのか)について適切に表現できていない解答も見られた。この要因として、複数の資料を比較したり関連付けたりして考察する指導や、歴史的事象が当時の社会にどのような影響を与えたのかなどについて考察する指導が不十分であつたことなどが考えられる。

指導に当たっては、複数の資料から読み取った情報を基に、当時の歴史的背景や影響などと合わせて考察し、適切に表現することで、歴史的事象の意義を理解させる学習活動を充実することが必要である。

③ 改善事例 第2学年「議会政治の始まりと国際社会との関わり 日露戦争」


1 指導のねらい

複数の資料から読み取った情報を基に、歴史的事象の意義について適切に表現することができる。

2 具体例

学習課題 <日露戦争は、日本にどのような影響を与えたのだろうか>


【資料1】
日比谷焼き打ち事件の様子



日露戦争の原因や様子について学んできました。日本が優位に戦争をすすめていましたね。この戦争の結果、日本では、資料1のような日比谷焼き打ち事件が起こりました。なぜだと思いますか。

ポイント①：歴史的事象の結果に関する資料を基に、その原因や影響を探る学習活動を工夫する。

日本海海戦の勝利などから、日本が日露戦争に勝って、国民は喜んでいてと思ったけれど、なぜこんな事件がおこったのだろう？




【資料2】

	日清戦争	日露戦争
日本の戦費	2.3 億円	18.3 億円
日本の戦死者数	1.4 万人	8.5 万人

【資料3】

	日清戦争後に結んだ下関条約の主な内容 (1895年)	日露戦争後に結んだポーツマス条約の主な内容 (1905年)
領土	○清は、遼東半島、台湾、澎湖諸島を日本にゆずる。	○ロシアは、北緯 50 度以南の樺太を日本にゆずる。
権利等	○清の開港場で製造業を経営する権利を日本に与える。	○ロシアは、遼東半島の租借権と長春から旅順の間の鉄道を日本にゆずる。 ○ロシアは、日本海・オホーツク海・ベーリング海のロシア領沿岸の漁業権を日本に与える。
賠償金	○清は、賠償金 2 億両 (当時の日本円で約 3 億 1 千万円) を日本に支払う。	なし




日清戦争と日露戦争を比較した資料を見て、どんな原因が考えられるでしょうか。

ポイント②：複数の資料を関連付けて、読み取った内容を発表させる。

資料2からは、日清戦争に比べて、日露戦争はかかった費用も、戦死者も多いことが分かるね。資料3は、それぞれの戦争で結んだ条約の内容が示されているね。



日比谷焼き打ち事件が起こったのは、資料2と資料3から、日露戦争は日清戦争に比べて、戦費や戦死者が多く、戦争の被害が大きかったのに、賠償金を得ることができなかったからだと思います。



では、なぜ、賠償金がもらえなかったことが、日比谷焼き打ち事件につながるのですか？

資料に着目して、戦争が人々の生活にどのような影響を与えていたかについて、考えてみましょう。

ポイント③：資料から読み取った内容が、当時の社会にどのような影響を与えたかについて考察を深めるために、意図的に問い返す。

戦費は国民からの税金でまかなっていたのではないかな。

戦死者も多かったから、家族を失った人もたくさんいたよね。働き手も少なくなって、とても苦しい生活をしていた人も多かったのではないかな。


日清戦争では、当時の国家予算の約3倍の賠償金が手に入って、国も豊かになったよね。



日露戦争は、戦争の被害は大きかったけれど、戦争を優位にすすめていたので、賠償金を得ることができると期待していた。でも、賠償金を得ることができなかったから、国民は政府に対して不満を爆発させたのではないかな。

ポイント④：資料から読み取った情報だけでなく、当時の歴史的背景や原因、影響などと関連付けて考察したことも合わせて、歴史的事象の意義を表現させる。

【補足資料】
増税に泣く国民の風刺画



当時の風刺画を見て分かるように、皆さんの指摘したとおりです。増税に苦しんでいた国民は、政府への不満が大きかったのですね。では、本時の課題について、国と国民の立場からまとめましょう。

ポイント⑤：自分の考えの根拠を明確にし、多面的・多角的な視点でまとめさせる。

中学校第3学年 英語

県平均正答率	学校正答率
53.0%	%

(1) 全体的な傾向

令和4年度の平均正答率は53.0%で、3年度より1.1ポイント上回ったが、どの領域においても到達状況は不十分である。「聞くこと」の領域は、単文の情報を聞き取ることは良好であるが、まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を得ることは不十分である。また、「読むこと」の領域は、概要や内容の読み取りに課題が見られる。「書くこと」の領域は、言語知識を活用しながら、場面や状況に応じて正しく表現することに依然として課題が見られる。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【聞くこと】 (県平均正答率：61.4%) (学校正答率： %)

◎：情報を正確に聞き取ること〔1〕

設問1の正答率は、91.4%であり、良好である。今後も情報を聞き取る活動を意図的、計画的に行うことが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1	No.1 短い英文の内容（誕生日）の聞き取り	90.7%	%
	No.2 短い英文の内容（旅行でしたこと）の聞き取り	92.0%	%

(県)R2：1No.2 H29：1(2)

▼：まとまりのある英語を聞いて、情報を整理しながら必要な情報を聞き取ること〔4〕

設問4の正答率は、44.5%であり、不十分である。要因として、目的に応じた聞き取り方の指導が不十分であることが考えられる。指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
4	No.1 情報を整理しながら必要な情報（集合場所）の聞き取り	34.3%	%
	No.2 情報を整理しながら必要な情報（集合時間）の聞き取り	37.0%	%
	No.3 情報を整理しながら必要な情報（持ち物）の聞き取り	62.1%	%

(県)R3：事例1 H27：事例1

(全)R1：3 (県)H28～R2：4

- ・目的や場面、状況を明示し、その目的に応じた聞き取り方を指導すること
- ・複数の情報について、キーワードや図式化などによる情報の整理の仕方を学び、そのメモをもとに、聞き取ったことを自分の言葉で表現するなど、領域統合を図った指導を工夫すること

【読むこと】 (県平均正答率：56.1%) (学校正答率： %)

▽：言語の使用場面や働き、語句の役割に気を付けながら、短い英文を正しく理解すること〔5〕

設問5の正答率は、64.9%であり、十分とはいえない。要因として、言語材料を様々な場面設定のもとで活用した指導が不十分であることが考えられる。指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
5	(1) be動詞の現在形を用いた英文の理解	54.5%	%
	(2) 人称代名詞（所有格）を用いた英文の理解	56.4%	%
	(6) 言語の働き（事実・情報を伝える）に応じた英文の解釈	65.0%	%

(全)R1：5(1) (県)H28～R3：5

- ・言語材料が使用される自然な場面設定のもとで、聞いたり、読んだりした内容を捉えさせることを通して、言語材料の意味や使い方等に気付かせること
- ・聞いたことについて書いたり、読んだことについて書いたりするなどして、領域統合を図った言語活動を工夫し、様々な言語材料を活用する指導を行うこと

▼：まとまりのある文章を読んで、話の概要や要点、書き手の意見などを捉えること〔9、10〕

設問9の正答率は、3年度の関連する設問の正答率を18.7ポイント上回ったが、不十分である。設問10の正答率は、35.9%であり、不十分である。指導に当たっては、次のような点を充実させる必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
9	話のあらすじの読み取り	58.3%	%
10	(1) まとまりのある文章の概要の読み取り	35.6%	%
	(2) 書き手が最も伝えたい内容の読み取り	50.4%	%
	(3) 話の内容や書き手の意見などの読み取り	21.6%	%

(県) R2・R3：事例2 H28：事例2

(県) R2・R3：9、10

- ・読む目的を明確にし、読み取らせたい情報を焦点化した上で、読み取り方を指導すること
- ・まとまった量の英文を読み、書き手の意図を理解した上で、その内容に対する自分の考えを話したり書いたりして、領域統合を図った言語活動が十分行われるよう指導を工夫すること

【書くこと】 (県平均正答率：41.9%) (学校正答率： %)

▼：語句や文法の知識を活用して、場面や状況に応じて正しく書くこと〔6、11〕

設問6については、p.36参照。設問11の正答率は、28.9%で不十分である。要因として、言語材料を繰り返し使用する指導が十分でないことが考えられる。指導に当たっては、次のような点を充実させる必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
6	(1) 一般動詞の1人称過去時制の肯定文の理解	39.4%	%
	(2) 一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文の理解	50.4%	%
	(3) 疑問詞+名詞を用いた過去時制の疑問文の理解	19.9%	%
11	① 状況に合う英文 (how to)への書きかえ	22.4%	%
	③ 状況に合う英文 (接続詞)への書きかえ	17.1%	%

(県)H27・H30：事例2

(全)R1：9 (県)R2・R3：11 H29・H30：10

- ・小学校での学びを生かし、慣れ親しんだ語句や表現等の知識を活用しながら言語活動を繰り返すことを通して、当該言語材料の意味や使い方等に気付かせること
- ・言語活動で表現した内容を書く活動につなげることで、表現の幅を広げる指導を工夫すること

▼：自分の考えや気持ちが正しく伝わるように、語と語、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと〔12〕

設問12については、3年度の関連する設問の正答率を7.4%上回ったが、不十分であり、依然として課題が見られる。この設問については、p.38参照。指導に当たっては、次のような点を充実させる必要がある。

年度	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
R3	アメリカでのホームステイ先でしたいこと	30.9%	%
R4	(新しいALTに向けて)あなたの町のおすすめの場所	38.3%	%

(県)H26・H29：事例2

(全)R1：10 (県)R2・R3：12 H28～H30：12

- ・自分の考えや意見を深めるために、目的や場面、状況等を明確にし、ほかの人と考えを伝え合ったり、質問をしたりして、領域統合を図った言語活動を工夫すること
- ・言語面や内容面の理解をさらに深めるために、1人1台端末を活用して、自分の書いた英文をペアやクラスで共有し、助言し合うなど、推敲の指導を充実させること

指導改善のポイント

- 言語材料の確実な定着に向けて、小学校との接続を意識した指導過程を工夫すること (→ 事例1)
- 目的や場面、状況に応じて、伝える内容を充実させるために、1人1台端末を効果的に活用した学習活動を工夫すること (→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

ア 事例1
言語材料の確実な定着に向けて、小学校との接続を意識した指導過程を工夫すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
6	書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 一般動詞の1人称過去時制の肯定文を正確に書くことができる。 一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書くことができる。 疑問詞＋名詞を用いた過去時制の疑問文を正確に書くことができる。 	知識・技能

6 次の(1)～(3)について、(例)を参考にしながら、必要があれば()内の語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、それぞれ会話が成り立つように英文を完成させなさい。

(例) <昼休みに>
 A: What will you do tomorrow?
 B: Well, (go) shopping.
 [解答例] I will go

(1) <登校中に>
 A: What did you do yesterday?
 B: I cooked *takoyaki* with my mother.
 (have) a good time.
 A: Sounds nice.

(2) <休み時間に>
 A: Our soccer team won the game yesterday!
 B: That's good. (play) soccer every day?
 A: Yes. It's fun!

(3) <英語の授業で>
 A: I went abroad last summer.
 B: (country) you go to?
 A: Canada.

正答例	誤答例	
(1) (I / We had) a good time. (2) (Do you play) soccer every day? (3) (What / Which country did) you go to?	(1) I have (2) Playing (3) Where country do you	
正答率 (準正答率)	誤答率	無解答率
(1) 39.4% (0.2%) (2) 50.4% (1.2%) (3) 19.9% (2.0%)	(1) 52.7% (2) 43.5% (3) 65.2%	(1) 7.9% (2) 6.0% (3) 14.9%

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「言語材料を活用し、目的や場面、状況に応じた正確な文を書くことができる」であり、正答率は36.6%と不十分である。この要因として、新出の言語材料の指導が、その時間だけにとどまり、その後に活用する場面がないことが考えられる。

指導に当たっては、新出の言語材料を指導する場面において、言語活動と指導を繰り返しながら、意味と使い方等の気付きを促し、様々な場面で言語材料を活用できるようにする必要がある。また、「帯活動」などにおいて、既習の言語材料を活用させる際には、使わせたい言語材料を明示せずに、自然な場面設定のもとで、繰り返し言語活動に取り組みさせることが大切である。その際には、教師がフィードバックをしながら、書く活動につなげることが大切である。

③ 改善事例 第1学年（学年段階や学習状況に応じて）

1 指導のねらい

言語材料を活用し、目的や場面、状況に応じた正確な文を書くことができる。

2 具体例

【導入】目的や場面、状況を明確にする

指導のポイント



I have no plan this weekend. I want to watch Japanese anime.
I usually watch it in my free time. It's a lot of fun! What do you usually do in your free time?

「帯活動」として small talk の中で扱うことも可能。

やり取り① (T-S)



What do you usually do in your free time?
I usually play video games.
I play sports games. What video game do you play?
I see. I usually listen to music in my free time.

小学校6年生で学習した表現の使用
- I usually...
- What (名詞) ~ ?

生徒の気付き
What do you ... music?
↓
What music do you...

What do you listen to music?
Yes. What music...
Oh. What music?
What music do I usually listen to?
Yes. What music do you usually listen to? I listen to ...



日本人の先生

教師が、やり取りの中で間違いをリキャスト等を行うことで語順の違いに気付かせ、言い直しをさせる。

やり取り②



- ・生徒同士(S-S)で、一度対話に挑戦する。
- ・教師の見取りで、表現内容が適切で、正確に英語を使用していたペアが全体で発表する。
- ・教師のフィードバック（リキャストや修正、繰り返し・誘導・聞き返し等）により、自分たちの対話との違いに気付く。
- ・再度、ペアを変えて対話する。

やり取りをしている間の生徒を見取り、T-S(S-S)の場面でリキャストや修正、繰り返し・誘導・聞き返し等を使用してフィードバックを行い、生徒の気付きを促す。

やり取り③（同じ言語材料で、意図的に時制を変えて会話する）

(T-S)



How about yesterday? What did you do yesterday?
I study for the test.
Oh, you studied for the test yesterday. What subject did you study?
I studied English. What do... did you do yesterday?
What movie did you watch? I watched a movie.

言語活動と指導を繰り返しながら、表現内容の適切さや英語使用の正確さを高める。



日本人の先生

やり取りをしている間の生徒を見取り、T-S(S-S)の場面でリキャストや修正、繰り返し・誘導・聞き返し等を使用してフィードバックを行い、生徒の気付きを促す。

やり取り④ (S-S) やり取り②と同様に、生徒同士で昨日のことについて、やり取りをする。

【まとめ】自分の言葉で、意味や使い方等についてまとめる

- ・小学校の学びを確認し、語順や使い方に気付き、特徴やきまりを理解する。
- ・自分が尋ねたことや答えたこと（対話文）について書く。

話したことを書くことにつながる

イ 事例2

目的や場面、状況に応じて、伝える内容を充実させるために、1人1台端末を効果的に活用した学習活動を工夫すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
12	書くこと	自分の考えや気持ちなどが正しく伝わるように、語と語、文と文のつながりなどに注意して文章を書くことができる。	思考・判断・表現

12 あなたの学校に新しくやって来る ALTに向けて、町の情報をまとめたパンフレットを作ることになりました。あなたは、A Good Place in Our Town(私たちの町のおすすめの場所)の記事を担当します。そこで、あなたのおすすめの場所を1つ決めて、理由を含む20語以上のまとまりのある英語の文章で記事を書きなさい。

なお、必要があれば下の「 」内の「表現例」を使用してもかまいません。

※短縮形(I'm や don't) は1語と数え、符号(, や ? など) は語数に含めません。

(例) No, I'm not. [3語]

「表現例」 Our town has... Our city is...
 There is (are)... You are (should)...

A Good Place in Our Town

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

※ここには、あなたが選んだおすすめ場所の写が入ります。



正答例	誤答例	
<p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> Our city has a very old and famous garden. We call it Kenrokuen. You can learn about the history of Kanazawa and see beautiful trees and flowers. Please visit Kenrokuen. (30語) There is a popular morning market in our city. You can eat and buy many kinds of food there. The seafood is very fresh. Why don't you try it? (29語) 	<p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> Kenrokuen is good. It is old and popular. I like it. I went there. I want to go there again. (目的や場面、状況に応じた内容になっていない) Kanazawa _ a good place. Wajima good place is. (コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがあるもの) 	
<p>正答率 (準正答率)</p> <p>38.3% (33.7%)</p>	<p>誤答率</p> <p>40.3%</p>	<p>無解答率</p> <p>21.4%</p>

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「自分の考えや気持ちなどが正しく伝わるように、語と語、文と文のつながりなどに注意して文章を書くことができる」であり、正答率は38.3%と不十分である。

この要因として、目的や場面、状況を十分に理解し、求められている内容を書く指導や言語材料の知識の定着を図る指導が不十分であると考えられる。

指導に当たっては、目的を明確にした上で、自分の考えを整理し、どのように書けばより伝わるのかを考えながら書き表す指導が必要である。その際、自分の考えを深めるために、1人1台端末を活用して、お互いの文章を読み合うなど、他者の表現等から学び合う活動を取り入れる指導も必要である。

③ 改善事例 全学年（学年段階や学習状況に応じて）

1 指導のねらい

自分の考えや気持ちなどが正しく伝わるように、語と語、文と文のつながりなどに注意して文章を書くことができる。

2 具体例（単元ゴールとして2時間で設定）

【導入】目的や場面、状況を明確にする

海外の姉妹校の中学生と意見交換会をすることになりました。
あなたは彼の意見についてどう思いますか。



Paul

I'm Paul. I'm 15. I live in the Philippines. I can't go to school because of the COVID-19, but I can study online at home. I can learn many things anywhere and anytime. It's better to study at home. What do you think?

【展開①】情報を整理し、自分の考えをまとめる

1人1台端末を活用し、デジタル付箋機能を用いて、個人で賛成・反対の理由をそれぞれ色分けした付箋に書いて貼る。
→共有後、自分の意見をもつ。

I agree. (青)		I disagree. (ピンク)	
can take lessons at home	don't need to change clothes	can't meet my friends	can't concentrate
have more free time	can make friends online	can't study with my friends	can't ask questions easily



生徒

【展開②】ペアで意見を伝え合い、その内容について質問し合う



生徒

I disagree with Paul. I like to study at school because I can meet and talk with my friends. It's a lot of fun!

I see. But, if you have a computer, you can talk with your friends online at home. What do you think?

Right, but... we can easily ask questions to each other at school.



生徒

異なる視点

【展開③】やり取りした内容を踏まえて、自分の考えを端末で表現する



I think studying at school is better than studying at home because I can meet and talk with my friends. I can see my friends online too. But we can easily ask questions to each other at school.

【展開④】クラスメイトの考えを共有し、フィードバックし合う



- ・端末から送信した意見を共有し、様々な意見を読み合う。
- ・生徒同士で内容面と言語面からフィードバックし合う。
- ・教師によるよい例の共有によって、自分の文章と比較し、友達の表現の仕方や、異なる視点、理由等を学び、改善に生かす。

【展開⑤】フィードバックを踏まえて、内容のまとまりに留意し、自分の考えを書く

相手意識

I disagree with your idea. I like to study at school because I can meet and talk with my friends. I can see my friends online too, but we can think about the answers together and easily ask questions to each other at school. For these reasons, I think it's nice to study at school.

【まとめ】達成状況を確認する

まとめの文

2文をつなぐ

- ・生徒の意見をいくつか取り上げ、全体にフィードバックする。
- ・別のテーマについて再度書く。

指導のポイント

【導入】

具体的な目的や場面、状況を設定し、誰に対して（Paul）、何のために（意見交換会）書くのかを明確にする。

【展開①】

テーマに応じて自分の考えや意見をもつために、立場を決めずに、様々な理由を考える。

- ・付箋はメモ書きにとどめ、文章を書くことを求めない。
- ・分からない語句については、教科書等を用いて、既習表現を思い出させる。
- ・デジタル付箋機能を使って、他者と考えや理由を共有することを通して、自分の意見をより明確にする。

【展開②】

英文を書く前に、やり取りを行うことによって、自分の考えを整理し、書く内容を充実させる。

【展開③、④】

- ・感想や改善点を伝え合うことで、自分の意見の深化に向けた気づきを促す。
- ・まとまりよく書けている生徒の文章を全体で共有し、なぜよいのかについて考え、生徒の気づきを促す。
- ・英文が目的に合っているか、適宜、考えさせる。
- ・生徒が共通して間違えている箇所や構成面等も取り上げ、より適切な表現につなげる。

【展開⑤】

【展開④】の端末で送信した意見をリライトする。フィードバックを踏まえ、内容面、言語面から推敲させる。

Ⅱ 質問紙調査結果の分析・考察

1 小学校第4学年児童の調査結果

学校が好き、各教科等の勉強が好き、各教科等の授業の内容がよく分かると答えた児童の割合は、これまでと同様に、ほとんどの教科・領域で80%以上、高いものは90%を上回っており、全般的に小4児童の学習意欲は、概ね良好である。

学びの12か条 + 4

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている」(94.0%)、「授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていたと思う」(81.7%)児童の割合は、いずれも高い。

学びの12か条 + 8

○家庭での学習時間について、「学校の宿題をしている」(96.0%)児童の割合は、これまでと同様に高い。
 ○「テレビゲームを2時間以上している」(35.8%)、「携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを30分以上している」(34.6%)児童の割合は、調査開始以来最も高く、今後、学習面や生活面においてどのような影響を与えるのか注視していく必要がある。
 ○「学校のきまりを守っている」(92.8%)、「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」(90.7%)児童の割合は、これまでと同様に高い。

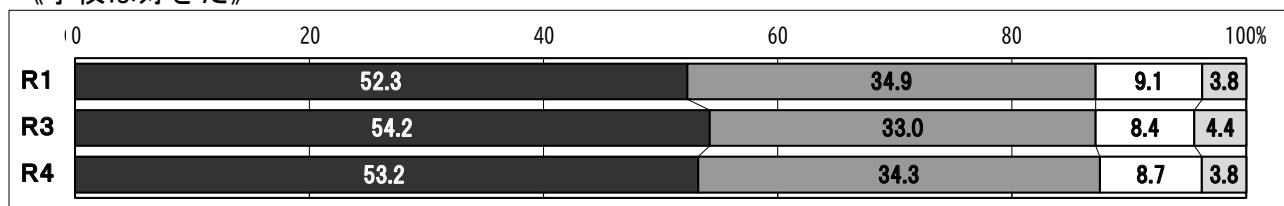
以上のことより、学力・学習を支える基盤づくりについては、概ね良好である。

※無回答を除いた割合で示している。

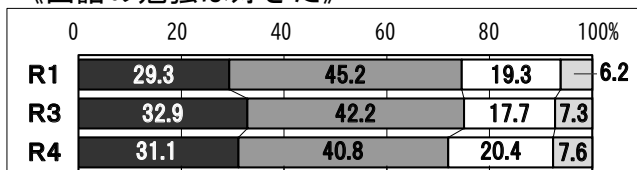
1 学校や各教科等の勉強は好きですか。授業の内容はよく分かりますか。

■あてはまる ■どちらかといえばあてはまる □どちらかといえばあてはまらない □あてはまらない

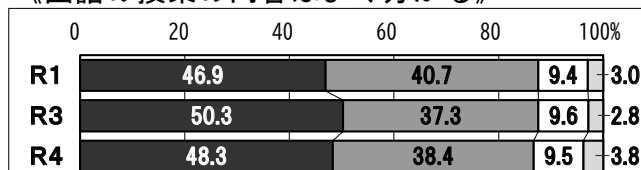
《学校は好きだ》



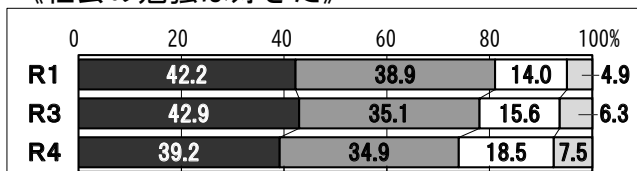
《国語の勉強は好きだ》



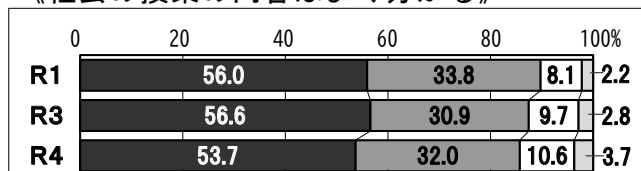
《国語の授業の内容はよく分かる》



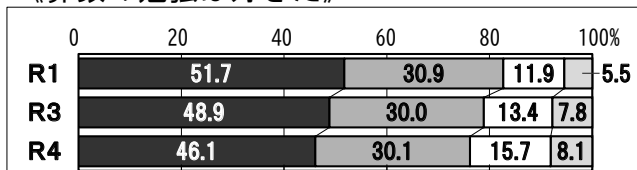
《社会の勉強は好きだ》



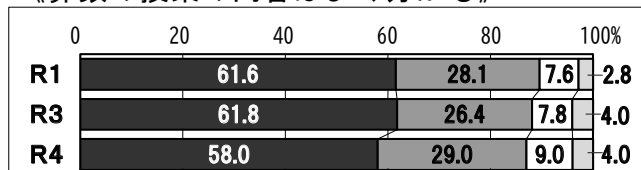
《社会の授業の内容はよく分かる》



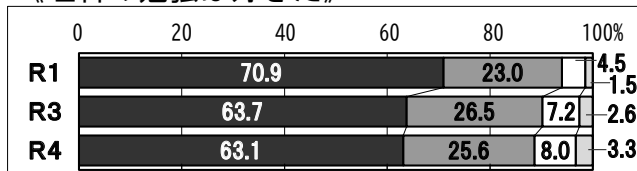
《算数の勉強は好きだ》



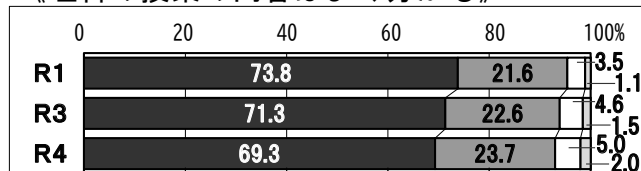
《算数の授業の内容はよく分かる》



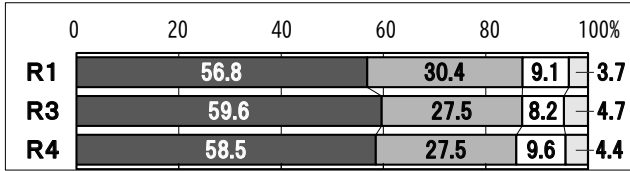
《理科の勉強は好きだ》



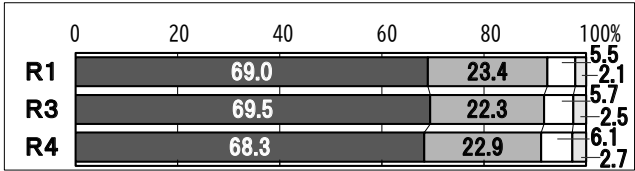
《理科の授業の内容はよく分かる》



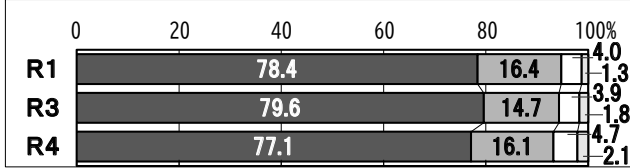
《音楽の勉強は好きだ》



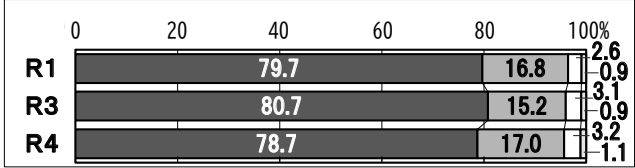
《音楽の授業の内容はよく分かる》



《図画工作の勉強は好きだ》



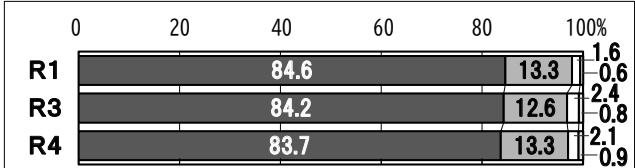
《図画工作の授業の内容はよく分かる》



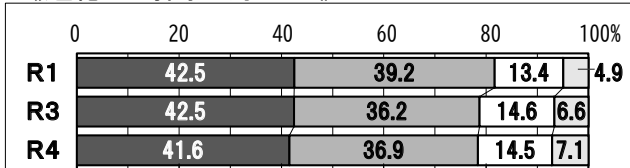
《体育の勉強は好きだ》



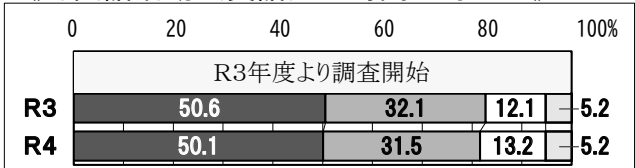
《体育の授業の内容はよく分かる》



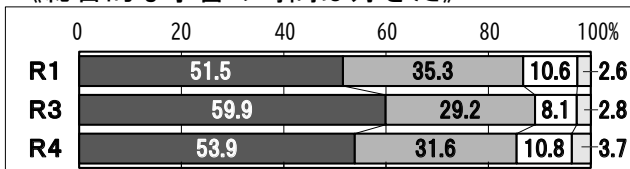
《道徳の時間は好きだ》



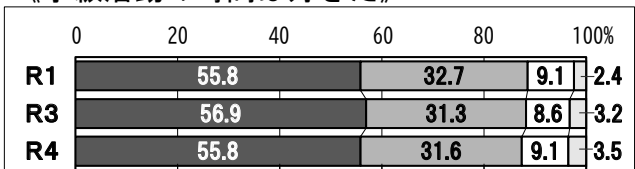
《外国語活動（英語）の時間は好きだ》



《総合的な学習の時間は好きだ》



《学級活動の時間は好きだ》

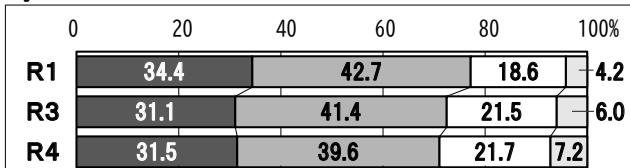


- ・《社会の勉強は好きだ》について、肯定的な回答をした児童の割合は、74.1%であり、R3年度より3.9ポイント減少している。
- ・《総合的な学習の時間は好きだ》について、肯定的な回答をした児童の割合は、85.5%であり、R3年度より3.6ポイント減少している。
- ・《国語の勉強は好きだ》について、肯定的な回答をした児童の割合は、71.9%であり、R3年度より3.2ポイント減少している。

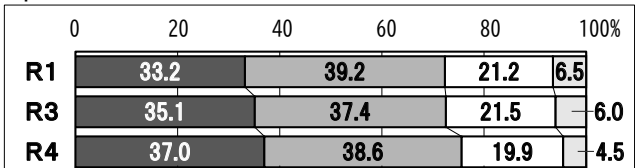
<参考>

《社会の勉強は好きだ》

小6

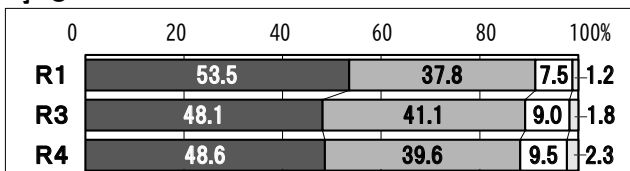


中3

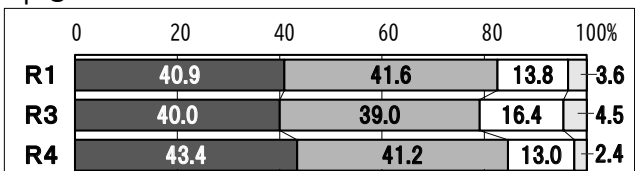


《社会の授業の内容はよく分かる》

小6



中3



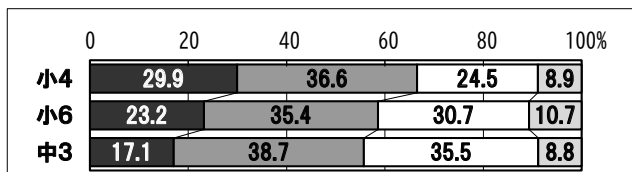
- ・《社会の勉強は好きだ》《社会の授業の内容はよく分かる》について、肯定的な回答をした生徒の割合は、中3でそれぞれ75.6%、84.6%であり、調査開始以来最も高い。

2 授業の中で次のようなことは好きですか。

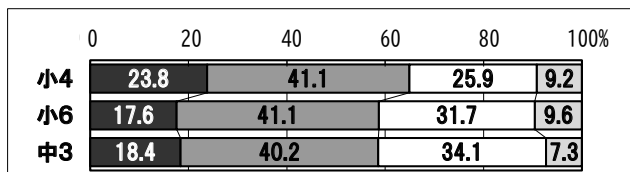
好き
 どちらかといえば好き
 どちらかといえば好きではない
 好きではない

<学年間比較>

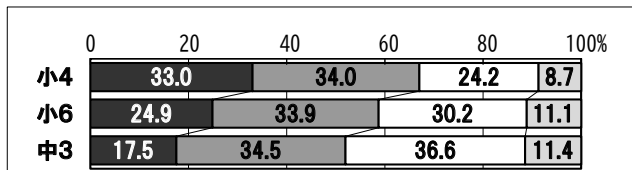
《自分の考えを发表或ししたり、話し合ったりすること》



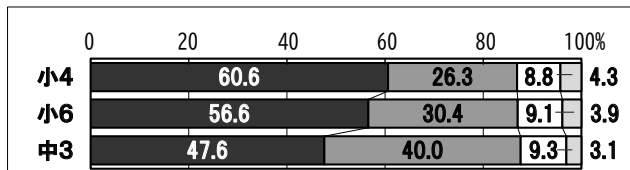
《分からなかったことを、もう一度勉強し直すこと》



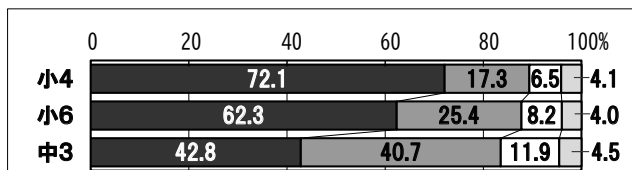
《教科書に出ていないことや、もっとくわしいことを勉強すること》



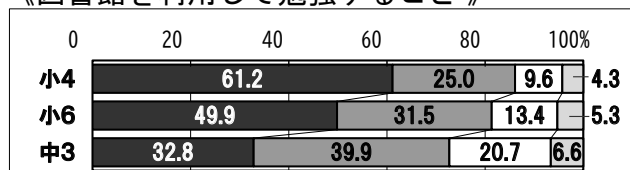
《少ない人数やグループで勉強すること》



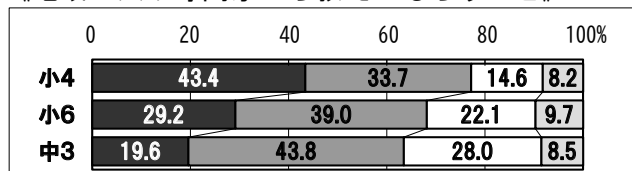
《コンピュータなどのICT機器を使って勉強すること》



《図書館を利用して勉強すること》



《地域の人や専門家から教えてもらうこと》

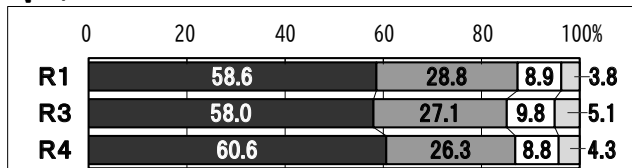


- ・《少ない人数やグループで勉強すること》について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小4で86.9%、小6で87.0%、中3で87.6%であり、いずれの学年においても高い。
- ・《コンピュータなどのICT機器を使って勉強すること》について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小4で89.4%、小6で87.7%、中3で83.5%であり、いずれの学年においても高い。

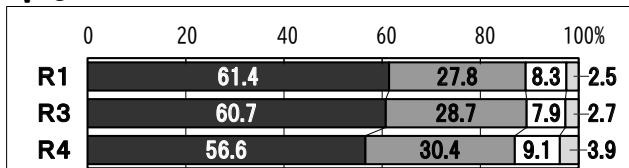
<参考>

《少ない人数やグループで勉強すること》

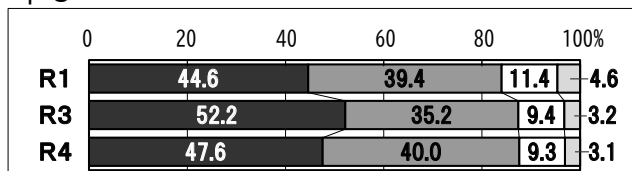
小4



小6



中3

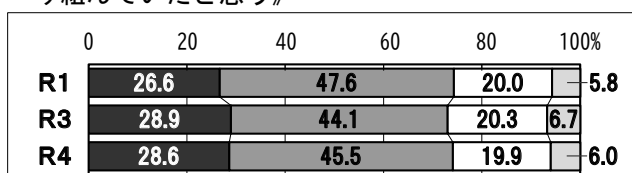


- ・《少ない人数やグループで勉強すること》について、肯定的な回答をした生徒の割合は、中3で87.6%であり、調査開始以来最も高い。

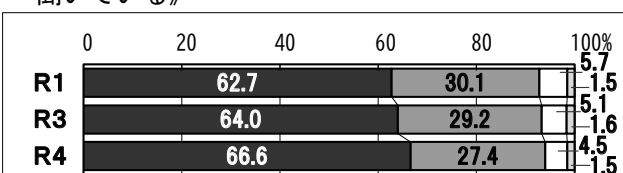
3 次のことは、あなたにどれくらいあてはまりますか。

■ あてはまる ■ どちらかといえばあてはまる □ どちらかといえばあてはまらない □ あてはまらない

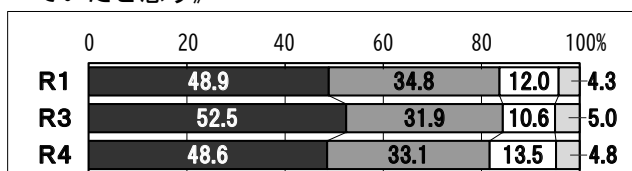
《授業では、課題について自分で考え、自分から取り組んでいたと思う》



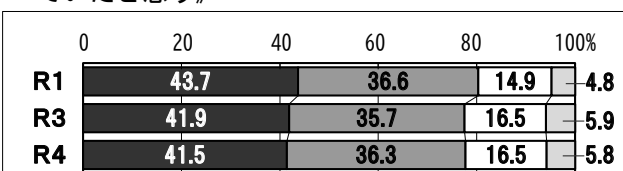
《友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている》



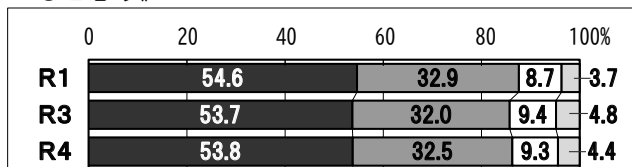
《授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていたと思う》



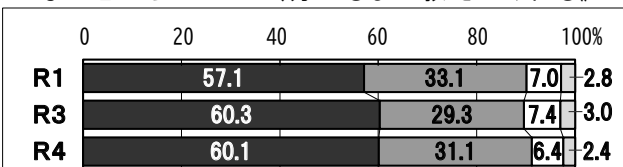
《授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う》



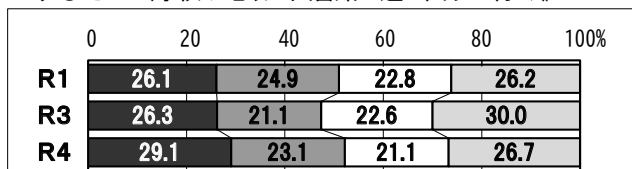
《先生は、あなたのよいところを分かってくれていると思う》



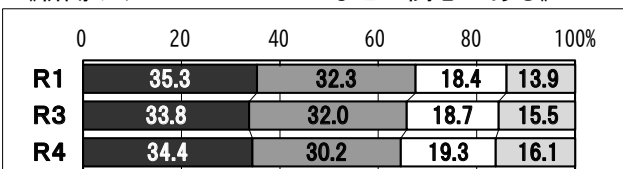
《先生は、授業やテストで間違えたところや、分からないところについて、分かるまで教えてくれる》



《昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり借りたりするために、学校や地域の図書館に週1回以上行く》



《新聞やテレビのニュースなどに関心がある》

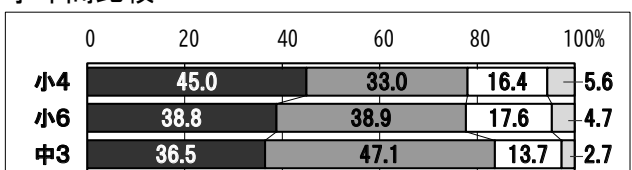


- ・《友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている》について、肯定的な回答をした児童の割合は、94.0%であり、調査開始以来最も高い。
- ・《昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり借りたりするために、学校や地域の図書館に週1回以上行く》について、肯定的な回答をしている児童の割合は、52.2%であり、R3年度より4.8ポイント増加している。
- ・《授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う》の項目については、P.55 参照。

<参考>

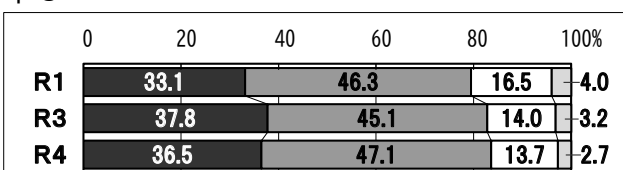
《道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思う》

学年間比較



《道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思う》

中3

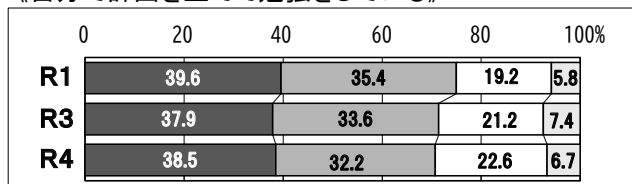


- ・《道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思う》について、肯定的な回答をした生徒の割合は、中3で83.6%であり、調査開始以来最も高い。

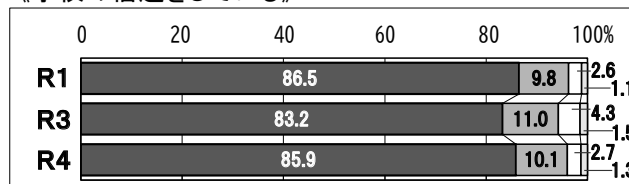
4 家で次のようなことをしていますか。

■ している ■ どちらかといえばしている □ あまりしていない □ 全くしていない

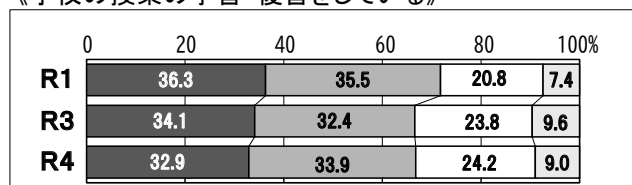
《自分で計画を立てて勉強をしている》



《学校の宿題をしている》



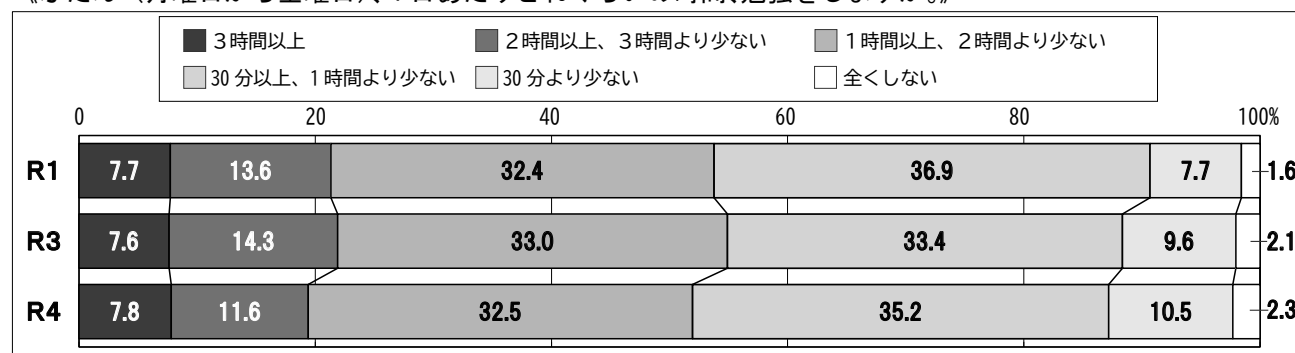
《学校の授業の予習・復習をしている》



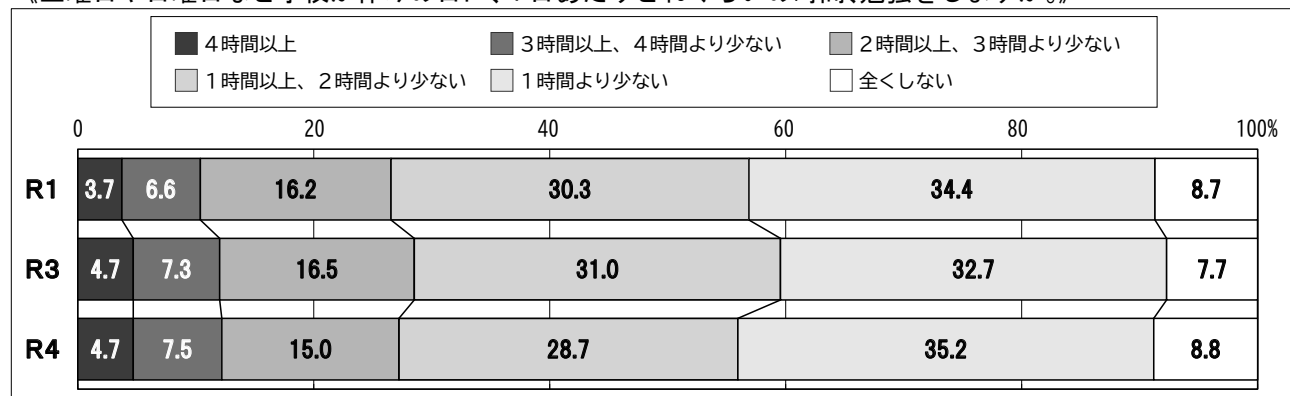
・《学校の宿題をしている》について、肯定的な回答をした児童の割合は、96.0%であり、これまでと同様に高い。

5

《ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。》



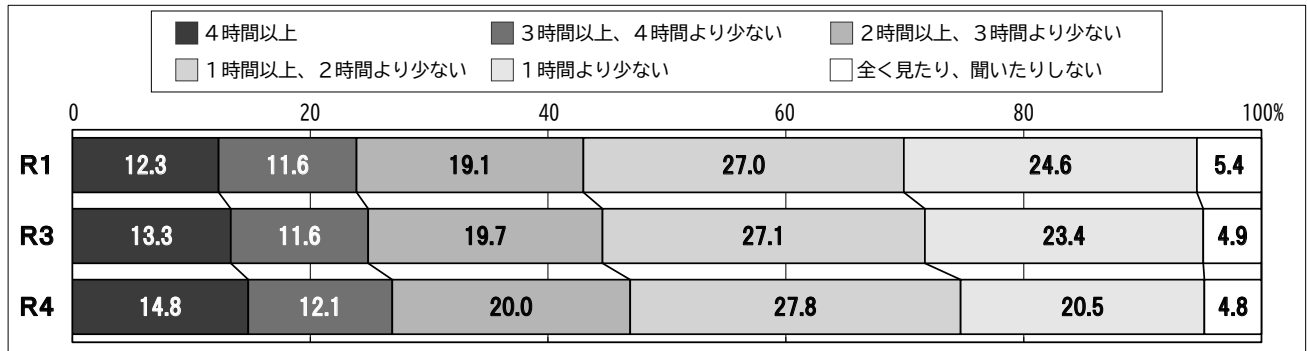
《土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。》



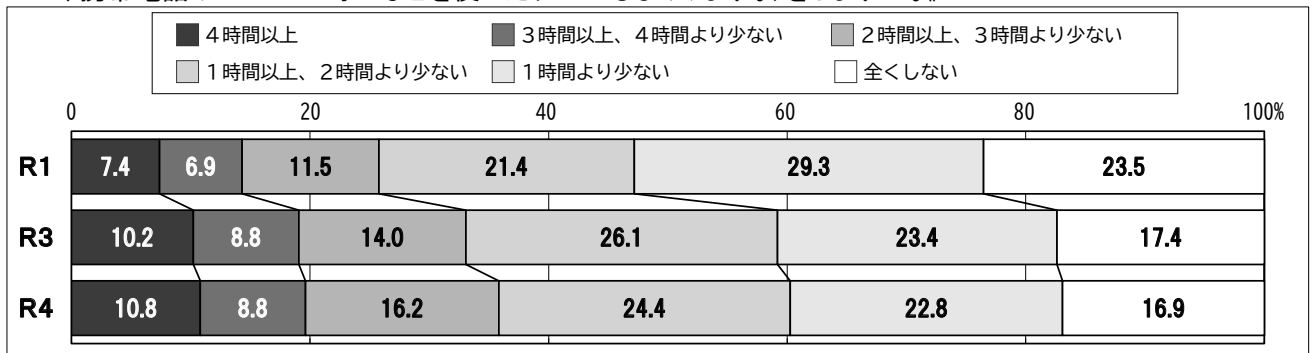
- ・平日の家庭学習時間について、勉強する時間が「1時間以上」と答えた児童の割合は、51.9%であり、R3年度の54.9%より3.0ポイント減少している。
- ・休日の家庭学習時間について、勉強する時間が「1時間以上」と答えた児童の割合は、55.9%であり、R3年度の59.5%より3.6ポイント減少している。

6

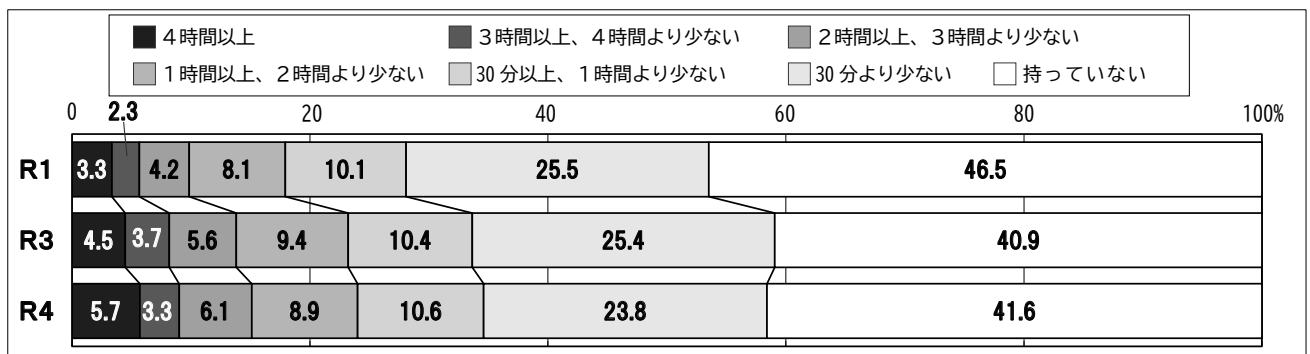
《ふだん(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。(テレビゲームをする時間はのぞきます。))》



《ふだん(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンなどを使ったゲームもふくみます。)をしますか。》



《ふだん(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンなどで通話やメール、インターネットをしますか。(携帯電話やスマートフォンなどを使ってゲームをする時間はのぞきます。))》



- ・ 普段のテレビゲーム等をする時間について、「2時間以上」と答えた児童の割合は、35.8%であり、調査開始以来最も高い。
- ・ 普段の携帯電話やスマートフォンなどで通話やメール、インターネットをする時間について、「30分以上」と答えた児童の割合は、34.6%であり、調査開始以来最も高い。

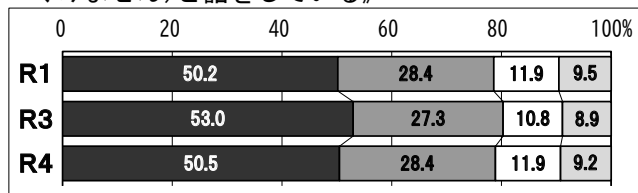
7 次のことは、あなたにどれくらいあてはまりますか。

あてはまる
 どちらかといえばあてはまる
 どちらかといえばあてはまらない
 あてはまらない

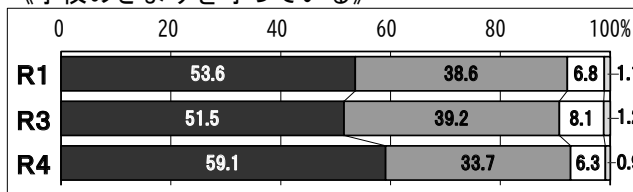
《テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めている》



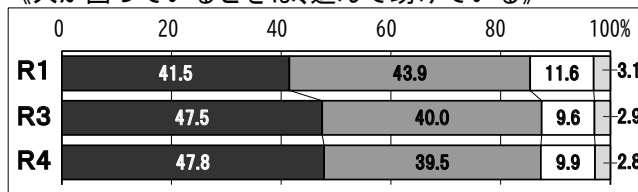
《学校での出来事について、家の人（兄弟姉妹はふくみません）と話をしている》



《学校のきまりを守っている》



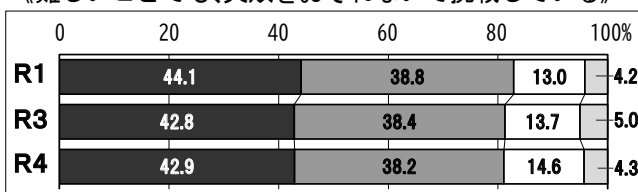
《人が困っているときは、進んで助けている》



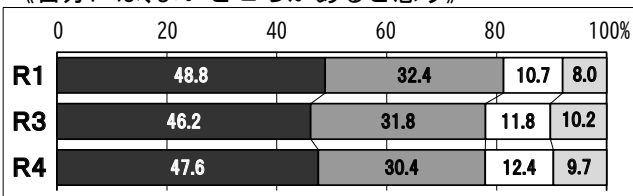
《ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある》



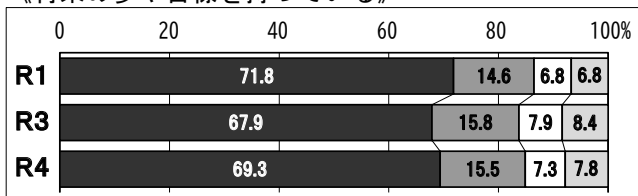
《難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している》



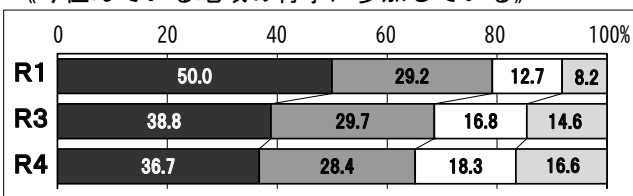
《自分には、よいところがあると思う》



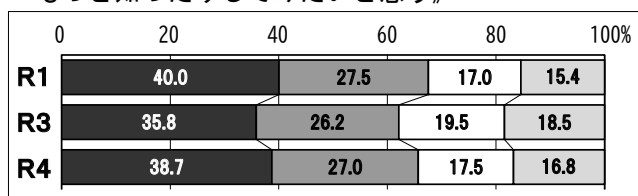
《将来の夢や目標を持っている》



《今住んでいる地域の行事に参加している》



《外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う》



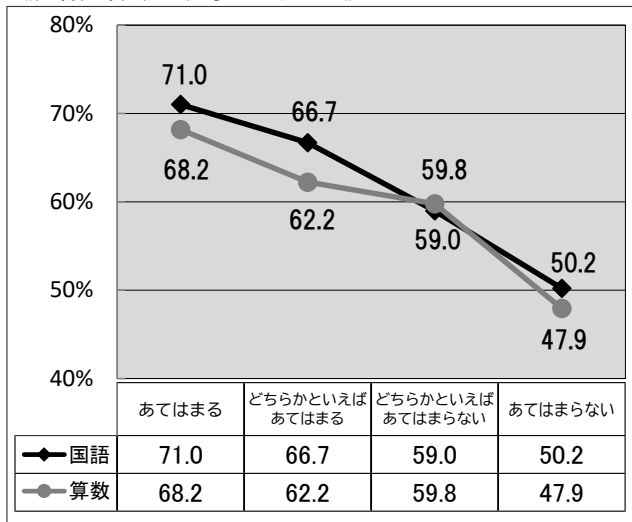
- ・《学校のきまりを守っている》について、「あてはまる」と積極的な回答をした児童の割合は、59.1%であり、R3年度の51.5%より7.6ポイント増加している。
- ・《外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う》について、肯定的な回答をした児童の割合は、65.7%であり、R3年度の62.0%より3.7ポイント増加している。
- ・《今住んでいる地域の行事に参加している》について、肯定的な回答をした児童の割合は、65.1%であり、R3年度の68.5%より3.4ポイント減少している。

2 学習・生活状況と正答率との関係

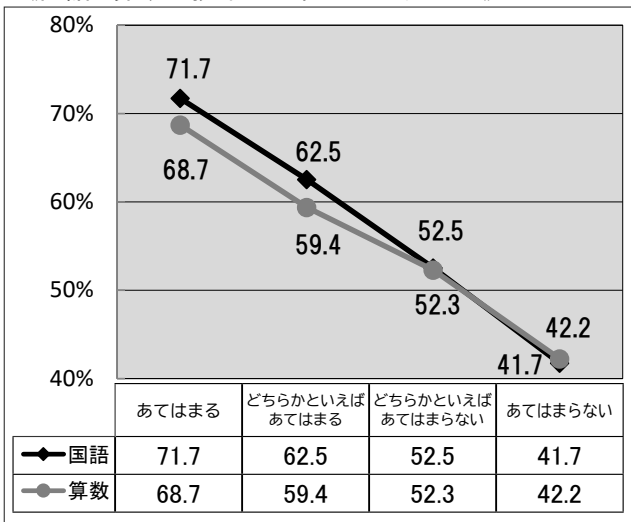
○小4児童の学習・生活状況について、以下と回答している児童の方が、教科（国語・算数）の正答率が高い傾向が見られる。

- ・国語・算数の勉強は好きだ。
- ・国語・算数の授業の内容はよく分かる。
- ・授業では、課題について自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。
- ・問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。
- ・友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている。
- ・授業の中で目標（めあて・ねらい・課題）が示されていたと思う。
- ・授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。
- ・自分で計画を立てて勉強をしている。
- ・ふだん（月曜日から金曜日）、携帯電話やスマートフォンなどで通話やメール、インターネットをする1日あたりの時間が少ない、または携帯電話やスマートフォンを持っていない。
- ・ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。

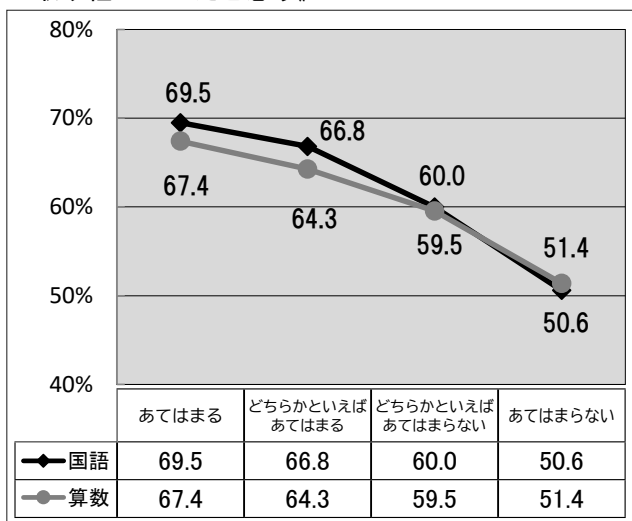
《国語・算数の勉強は好きだ》



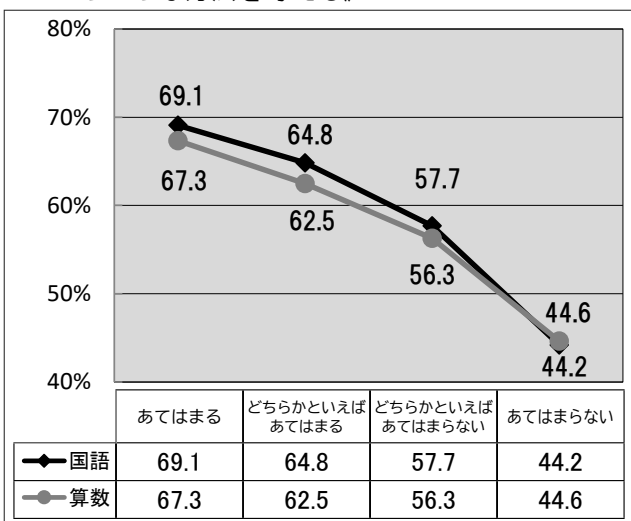
《国語・算数の授業の内容はよく分かる》



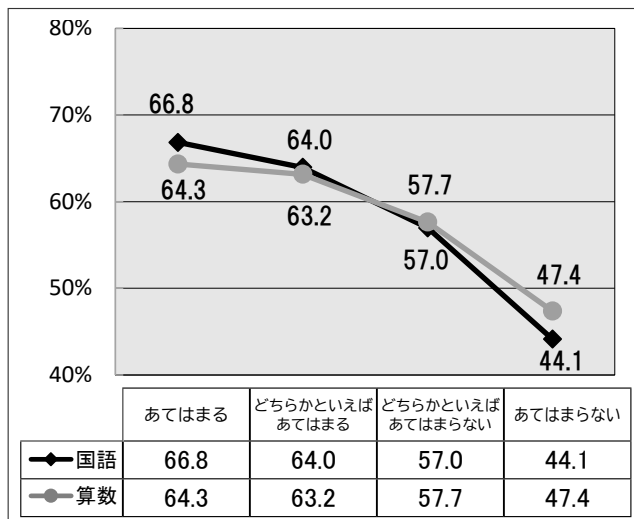
《授業では、課題について自分で考え、自分から取り組んでいたと思う》



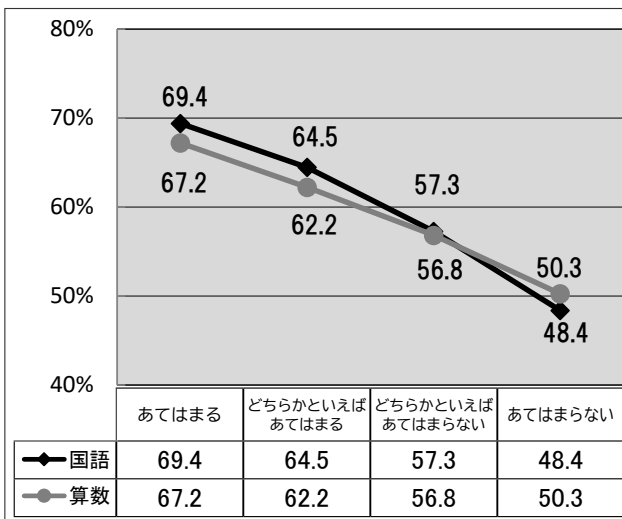
《問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える》



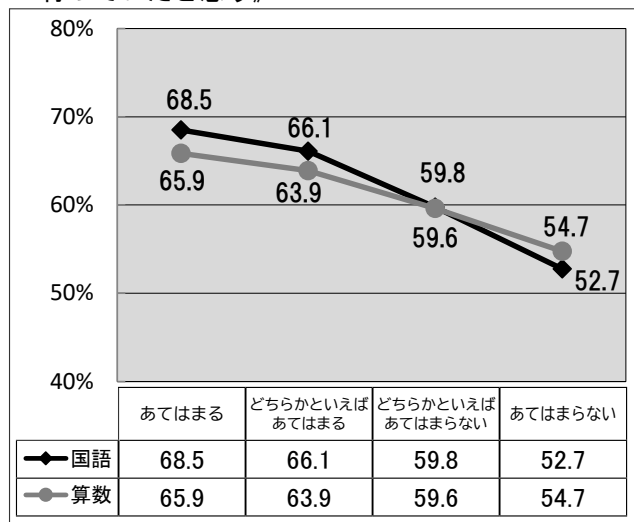
《友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている》



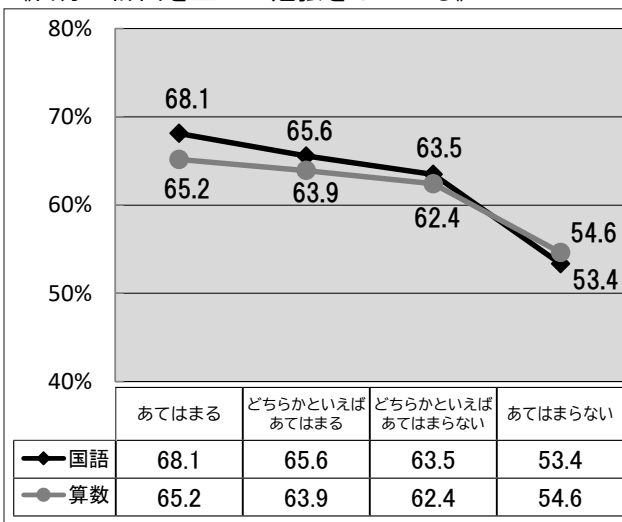
《授業の中で目標（めあて・ねらい・課題）が示されていたと思う》



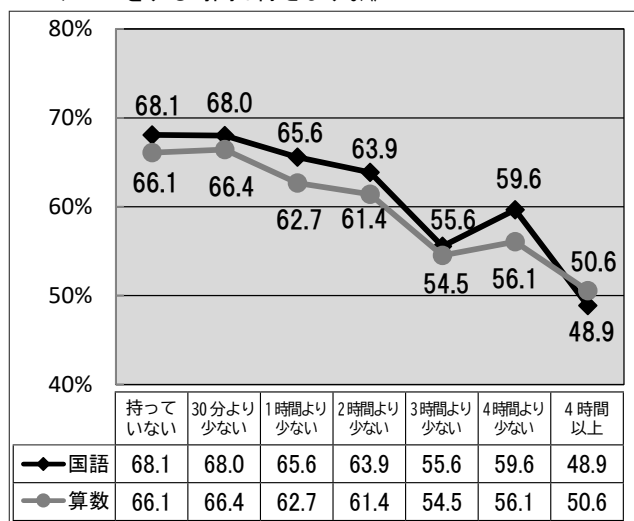
《授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う》



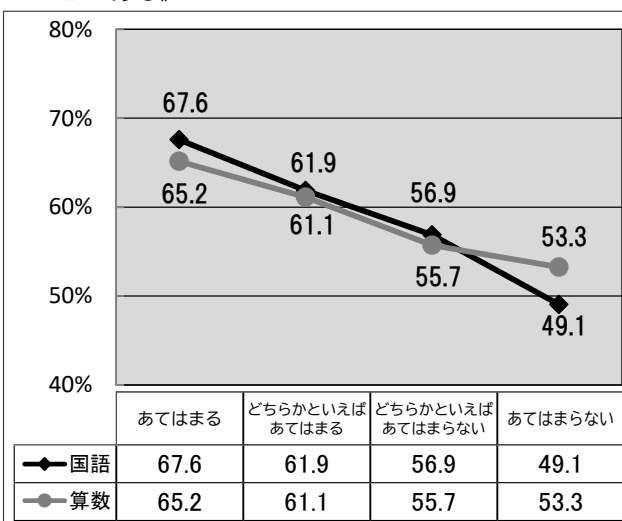
《自分で計画を立てて勉強をしている》



《ふだん(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンなどで通話やメール、インターネットをしますか。(携帯電話やスマートフォンなどを使ってゲームをする時間は除きます。))》



《ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある》



3 教員の調査結果

「1 学力の重要な要素に関すること」について、肯定的な回答をした教員の割合は、それぞれ90%以上であり、学力の向上に向けた教員の意識は概ね良好である。

学びの12か条 + 1・2

- 「問題解決的な学習、実生活における様々な事象との関連を図った学習などを通して、活用力（思考力・判断力・表現力等）を育成する指導をしている」教員の割合は、小学校では94.1%、中学校では91.7%であり、これまでと同様に高い。
- 「児童生徒の様々な考えを引き出ししたり、思考を深めたりするような発問や指導をしている」教員の割合は、小学校では97.7%、中学校では95.2%であり、これまでと同様に高い。

学びの12か条 + 6・7

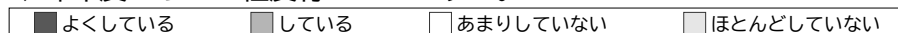
- 「児童生徒の発言の機会や活動の時間を確保して、学び合う場を設けている」教員の割合は、小学校では97.7%、中学校では94.6%であり、これまでと同様に高い。
- 「教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）のICT機器を使用した授業を行っている」教員の割合は、小学校で85.9%、中学校で85.9%であり、R3年度より小学校で2.0ポイント、中学校で5.9ポイント、それぞれ増加している。
- 「児童生徒がコンピュータなどのICT機器を使用した授業を行っている」教員の割合は、R3年度より小学校で9.2ポイント、中学校で15.3ポイント、それぞれ増加している。

学びの12か条 + 10・11

- 「自校の『学力向上プラン』に基づく指導をしている」教員の割合は、小学校では94.1%で、中学校では90.3%であり、これまでと同様に高い。

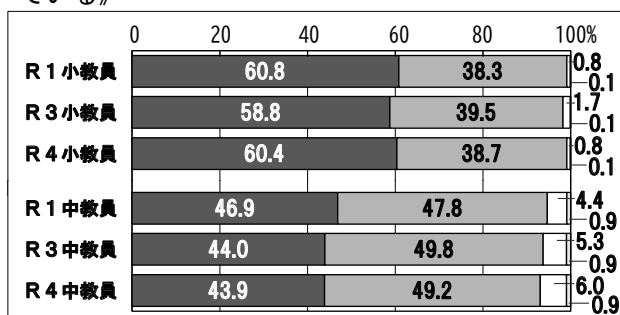
※「回答できない」及び無回答を除いた割合で示している。

次の指導等を、昨年度からどの程度行っていますか。

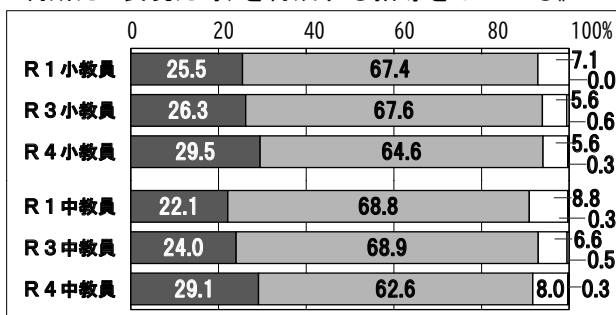


1 学力の重要な要素に関すること

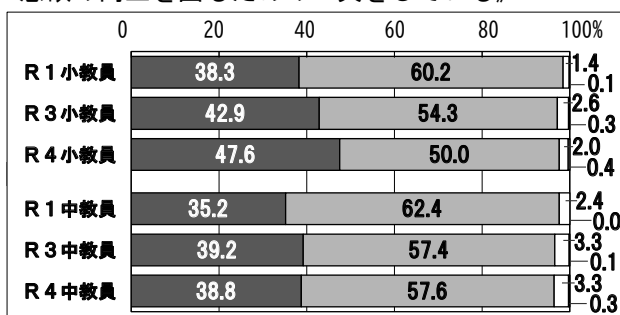
《繰り返し学習（音読、暗記・暗唱、反復学習など）を通して、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図っている》



《問題解決的な学習、実生活における様々な事象との関連を図った学習などを通して、活用力（思考力・判断力・表現力等）を育成する指導をしている》



《課題設定や授業展開、教材・教具の開発など、学習意欲の向上を図るための工夫をしている》

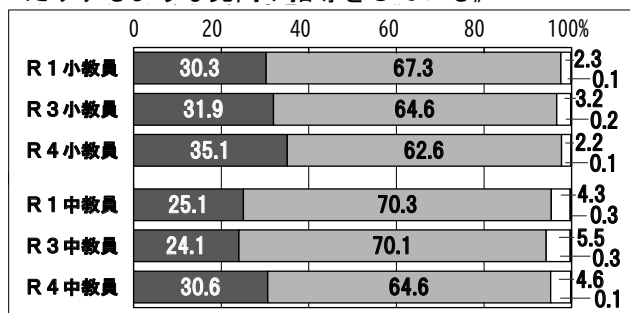


＜肯定的な回答の割合が高い項目＞

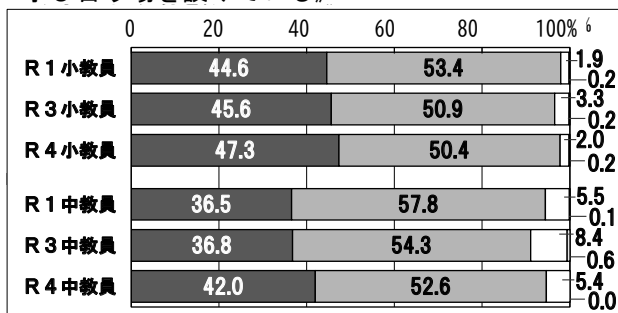
・《課題設定や授業展開、教材・教具の開発など、学習意欲の向上を図るための工夫をしている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校97.6%、中学校96.4%であり、これまでと同様に高い。

2 教科等に関すること

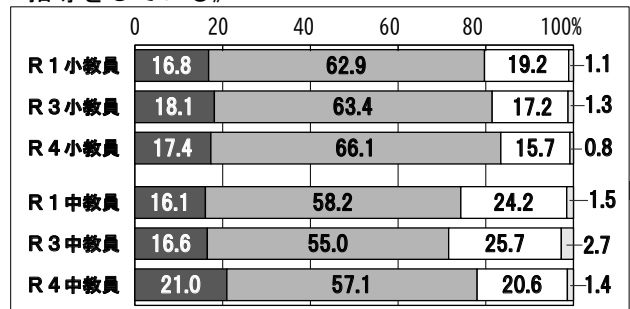
《児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている》



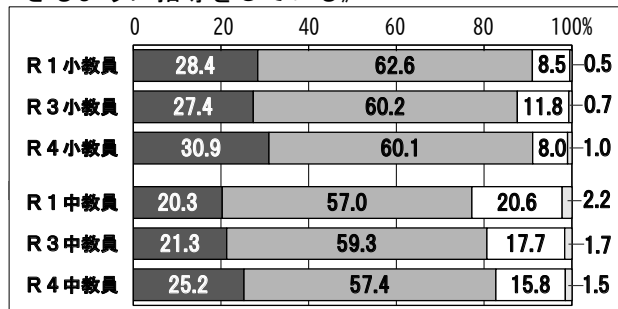
《児童生徒の発言の機会や活動の時間を確保して、学び合う場を設けている》



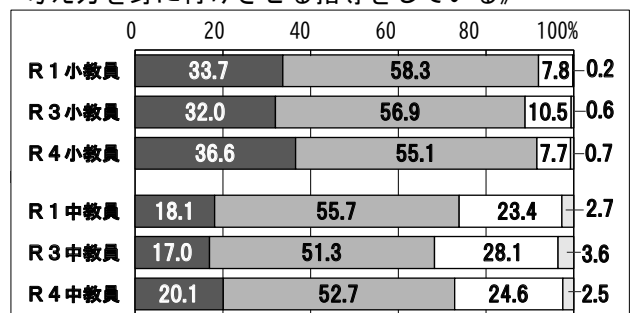
《記録、要約、説明、論述などの言語活動を重視した指導をしている》



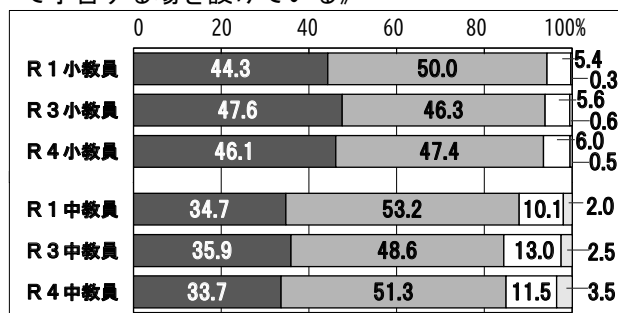
《考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるように指導をしている》



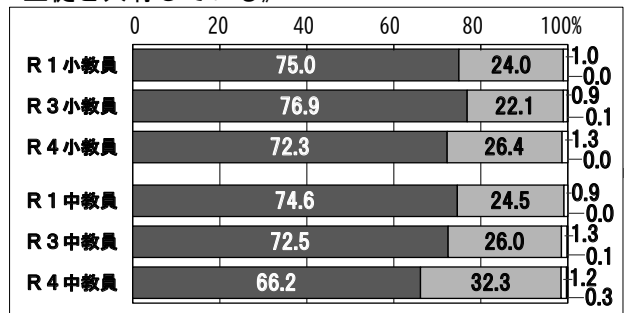
《ノートへの書き方やまとめ方などの指導を通して、考え方を身に付けさせる指導をしている》



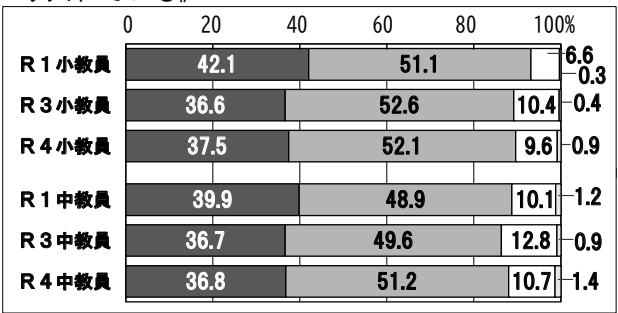
《児童生徒がテストの間違ったところを振り返って学習する場を設けている》



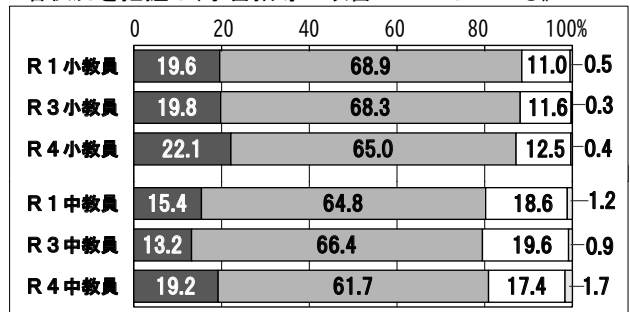
《授業の中で、目標（めあて・ねらい・課題）を児童生徒と共有している》



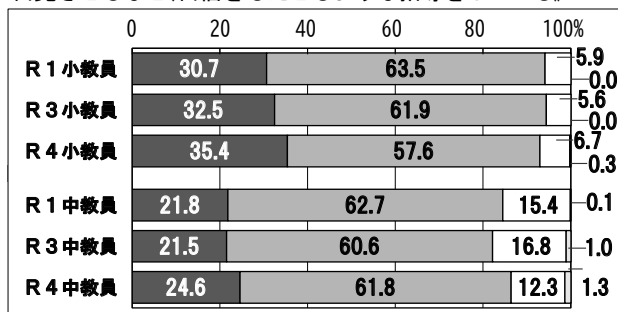
《授業の最後に、学習したことを振り返る活動を取り入れている》



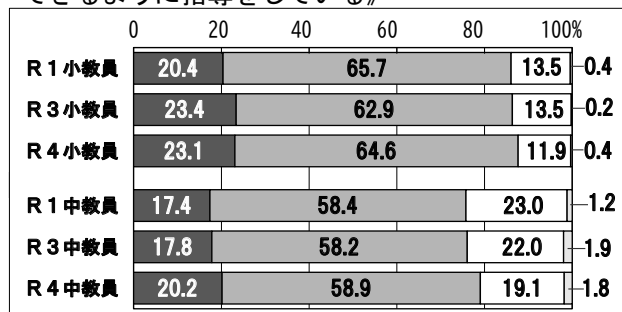
《授業において、明確な評価規準を基に児童生徒の定着状況を把握し、学習指導の改善に生かしている》



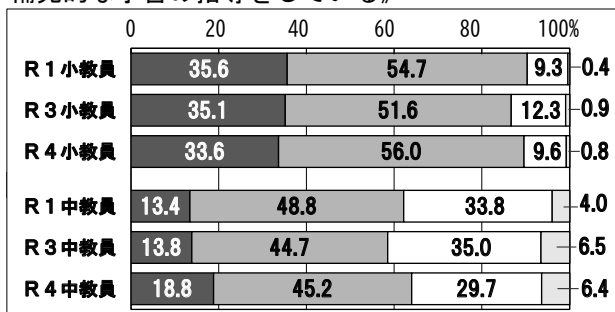
《授業において、児童生徒一人一人に自分の成長や変容を自覚させるなど、自信をもたせるような指導をしている》



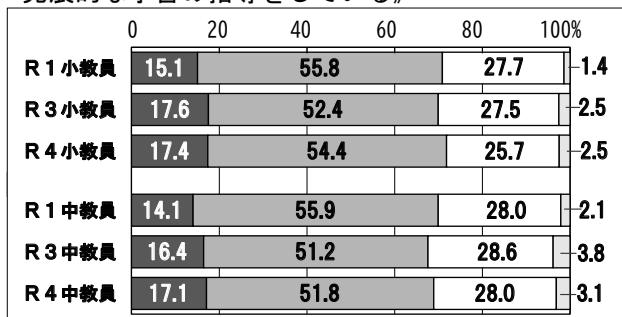
《授業で身に付けたことを課題の解決に活用したり、他教科や日常生活の様々な場面で生かしたりできるように指導をしている》



《個に応じた指導として、習熟の遅い児童生徒に、補充的な学習の指導をしている》



《個に応じた指導として、習熟の早い児童生徒に、発展的な学習の指導をしている》



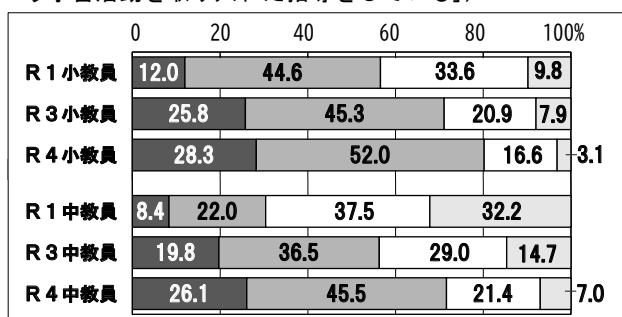
《教員が大型提示装置(プロジェクター、電子黒板など)などのICT機器を活用した授業を行っている》

(※R1年度までは「コンピュータなどを使って、資料を拡大表示したり、デジタル教材を活用したりするなどの工夫をしている」)

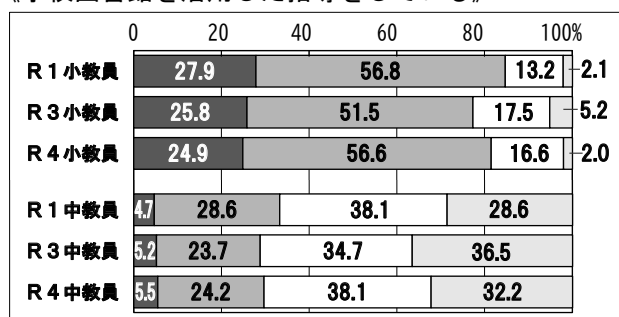


《児童生徒がコンピュータなどのICT機器を使用した授業を行っている》

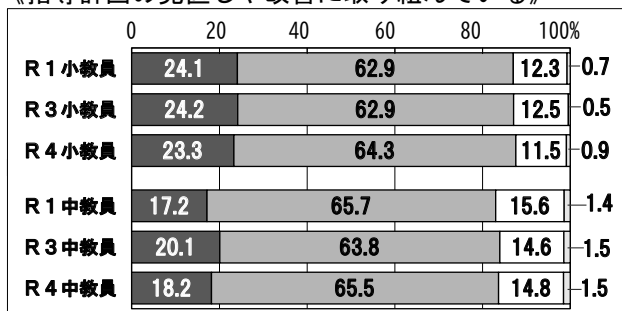
(※R1年度までは「児童生徒がコンピュータなどを使う学習活動を取り入れた指導をしている」)



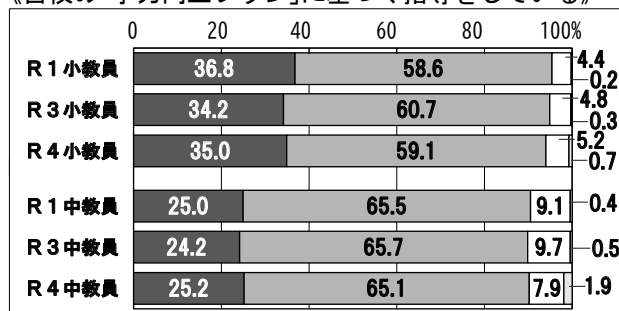
《学校図書館を活用した指導をしている》



《指導計画の見直しや改善に取り組んでいる》



《自校の「学力向上プラン」に基づく指導をしている》



＜肯定的な回答の割合が高い項目＞

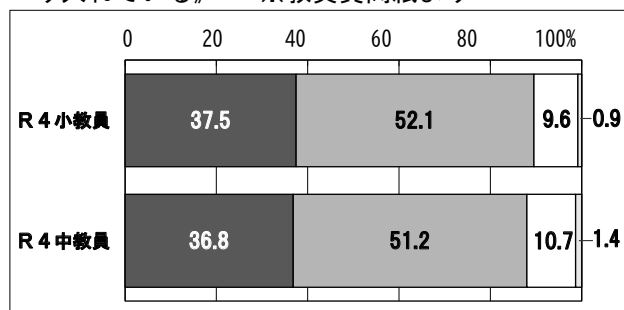
- ・《児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で97.7%、中学校で95.2%であり、これまでと同様に高い。
- ・《授業の中で、目標(めあて・ねらい・課題)を児童生徒と共有している》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で98.7%、中学校で98.5%であり、これまでと同様に高い。

＜R3年度と比べて上昇した項目＞

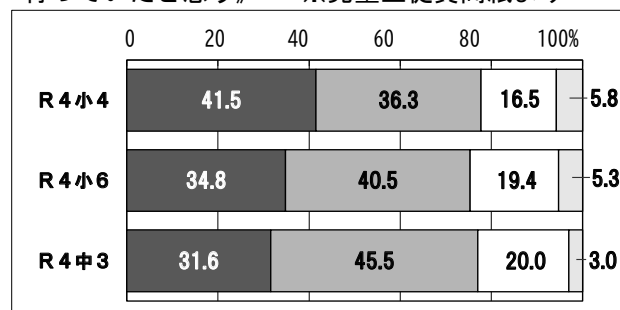
- ・《児童生徒がコンピュータなどのICT機器を使用した授業を行っている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で80.3%、中学校71.6%と調査開始以来最も高く、R3年度より小学校9.2ポイント、中学校15.3ポイント、それぞれ増加している。
- ・《記録、要約、説明、論述などの言語活動を重視した指導をしている》について、肯定的な回答をした中学校教員の割合は78.1%であり、R3年度より6.5ポイント増加している。

<その他、留意する項目>

《授業の最後に、学習したことを振り返る活動を取り入れている》 ※教員質問紙より



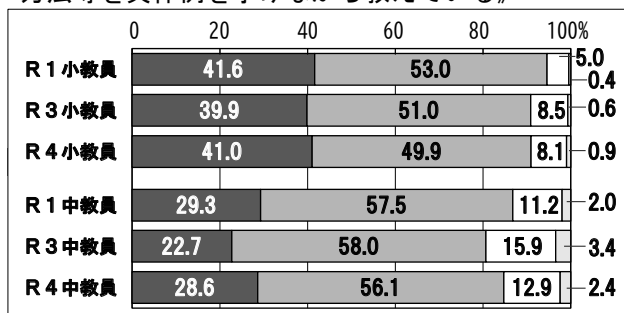
《授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う》 ※児童生徒質問紙より



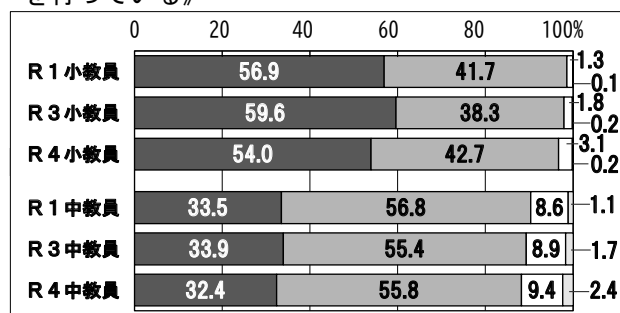
- ・《授業の最後に、学習したことを振り返る活動を取り入れている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で89.6%、中学校で88.0%である。また、児童生徒の調査結果では、《授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う》について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小4で77.8%、小6で75.3%、中3で77.1%である。

3 家庭学習に関すること

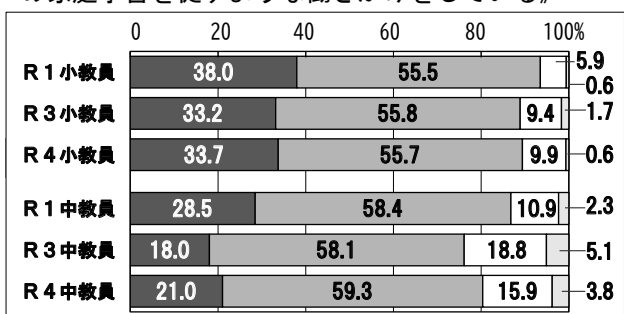
《家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えている》



《児童生徒が取り組んだ宿題について、評価・指導を行っている》



《学校・学年・学級単位で、保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけをしている》

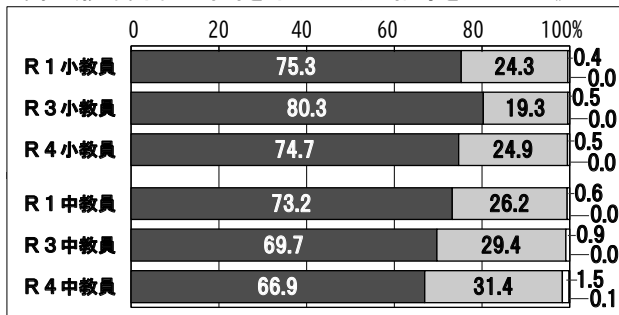


<R3年度と比べて上昇した項目>

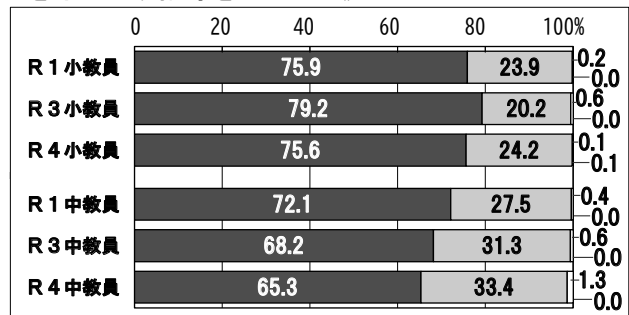
- ・《家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えている》について、肯定的な回答をした中学校教員の割合は84.7%であり、R3年度より4.0ポイント増加している。
- ・《学校・学年・学級単位で、保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけをしている》について、肯定的な回答をした中学校教員の割合は80.3%であり、R3年度より4.2ポイント増加している。

4 学習規律等に関すること

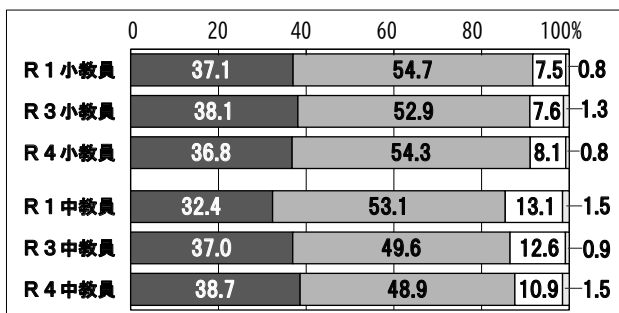
《児童生徒に、学習規律(私語をしない、相手を意識して話す・聞く、授業開始の時刻を守るなど)の指導をしている》



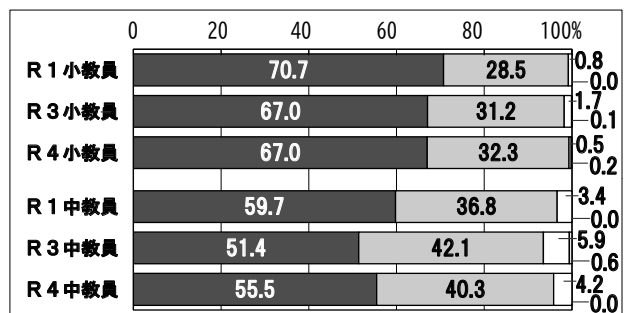
《児童生徒に、校則や集団生活のルール・マナーを守るよう指導をしている》



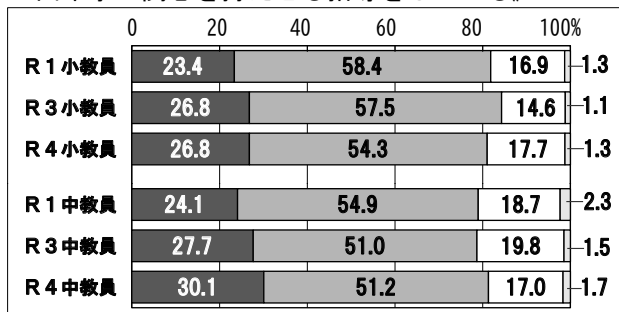
《児童生徒に、基本的な生活習慣(早寝・早起き・朝ご飯・テレビの視聴時間など)の指導をしている》



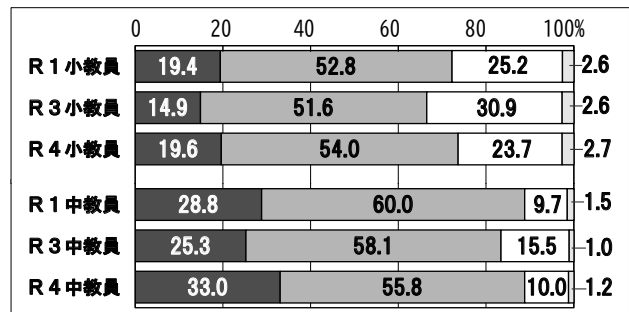
《児童生徒に、進んで挨拶をするよう指導をしている》



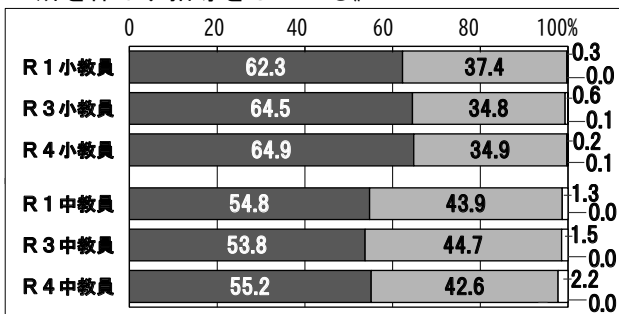
《児童生徒に、地域や社会で起こっている問題や出来事に関心を持たせる指導をしている》



《児童生徒に、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている》



《児童生徒を認めたり、励ましたりしながら、長所を伸ばす指導をしている》



＜肯定的な回答の割合が高い項目＞

- ・《児童生徒に、学習規律(私語をしない、相手を意識して話す・聞く、授業開始の時刻を守るなど)の指導をしている》《児童生徒に、校則や集団生活のルール・マナーを守るよう指導をしている》《児童生徒を認めたり、励ましたりしながら、長所を伸ばす指導をしている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で99.6%～99.8%、中学校で97.8%～98.7%であり、これまでと同様に高い。

＜R3年度と比べて上昇した項目＞

- ・《児童生徒に、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で73.6%、中学校88.8%であり、R3年度より小学校7.1ポイント、中学校5.4ポイント、それぞれ増加している。

改訂 いしかわ学びの指針 12 か条【学びの 12 か条^{プラス}】

活用力を高める授業づくり

- 1 物事を多様な観点から考察する力の育成
 - ・得た情報を表面的に捉えずに多面的・多角的に検討させ、思考・判断できるようにする
 - ・他者と話し合い、問題解決を進めるための情報の送り方、受け取り方が身に付くようにする
- 2 自ら課題を発見し、主体的・協働的に課題を解決する力の育成
 - ・各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める
 - ・各教科等の文脈の中で身に付ける力と、教科横断的に身に付ける力とを相互に関連付けながら育成する
- 3 根拠や筋道を明確に表現する力の育成
 - ・考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるようにする
 - ・思考の過程がわかる書き方や書く内容を明確に示すなど、ノート指導を充実する

学力・学習を支える基盤づくり

- 4 目的や状況・相手に応じて「聞く」「話す」態度・姿勢の醸成
 - ・目的や状況・相手に応じて適切に「聞く」「話す」ことを、低学年から意図的・計画的に指導する
 - ・相手や内容に関心を持ち、安心して最後まで聞き合い、話し合う姿勢や態度が身に付くようにする
- 5 目的や条件に応じて「書く」、必要な情報を「読む」態度・姿勢の醸成
 - ・目的や条件に応じ、質や量を考えて書くことができるようにする
 - ・文章や表・グラフなどから、必要な情報や価値のある情報を読み取ることができるようにする
- 6 よりよい解決に向かうための質の高い学び合いのプロセスの重視
 - ・多様性を尊重する態度と、互いのよさを生かして協働する力が身に付くようにする
 - ・目的やねらいに向け、相互の考えを整理したりまとめ上げたりする技能が身に付くようにする
- 7 主体的な問題解決のための効果的なICT活用の促進
 - ・ICTを効果的に活用した分かりやすく深まる授業づくりを進める
 - ・学校・地域にあるリソースを生かし、ICTの活用スキルの確実な定着を進める
- 8 よりよい学習習慣・生活習慣の定着
 - ・家庭学習の充実に向け家庭や地域と連携し、よりよい習慣づくりを推進する
 - ・豊かな思考・判断の基盤となる子どもの語彙力や読解力を高めるため、読書活動を活性化する
- 9 家族や地域の人々とのコミュニケーションを促進し、家庭・地域・社会と結び付いた学びの推進
 - ・家庭や地域での大人と子どもの共通の体験や学習、対話を促進する
 - ・社会の出来事に関心を持たせ、子どもの視野を広げるとともに、将来への目的意識を持つことができるようにする

指導改善を進める体制づくり

- 10 学力と指導力を持続的・継続的に高める組織づくりの推進
 - ・学校全体で目標を共有し、一人一人の役割を明確にして持続的・継続的に課題解決に取り組む
 - ・小中連携を推進し、指導の連続性を図る
- 11 現状把握に基づき、取組の実施・評価・改善を図る指導体制の確立
 - ・児童生徒の現状把握からその原因を究明し、目標に照らした課題と、その改善に向けた具体策を設定する
 - ・中長期的な目標を設定し実践するとともに、短期的な目標達成に向け、スモールステップで共通実践を行い、検証・評価・改善を積み上げる【学力向上ロードマップ】
- 12 保護者・地域との積極的な情報共有・連携の推進
 - ・学校として保護者や地域に、情報や提案を積極的に発信し情報公開に努め、目標や課題を共有する
 - ・地域の諸機関、人材との連携協力を進め、地域の子どもの育てる環境づくりを進める

令和4年度

「基礎学力調査」 ー分析・考察と指導事例ー

令和4年10月発行

石川県教育委員会事務局学校指導課

〒920-8575 石川県金沢市鞍月1丁目1番地

TEL 076-225-1827

e-mail : gakusi@pref.ishikawa.lg.jp